

令和7(2025)年度
高知大学
グローバル教育支援センター年報

2026年3月発行

令和 7(2025)年度 年報目次

はじめに
1. グローバル教育支援センター基本方針	
2. 組織
(1) 組織図	
(2) スタッフ	
3. 活動報告
3.1 セミナー・ワークショップ	
(1) グローバルキャリアセミナー	
(2) 海外留学ワークショップ（第1学期・第2学期）	
(3) 海外留学フェア	
(4) 協定校間特別セミナー（第1学期・第2学期）	
(5) 協定校からの留学生たち（第1学期・第2学期）	
(6) 海外危機管理セミナー（第1学期・第2学期）	
3.2 海外派遣留学
(1) 海外留学説明会 & 留学体験報告会（第1学期・第2学期）	
(2) 留学準備モジュール	
(3) 個別留学相談	
(4) トビタテ！留学 JAPAN	
(5) グローバル・エデュケーション・サポート・センター新聞	
3.3 交流活動
(1) 大豊町における茶摘み体験（地域交流事業）	
(2) 留学生歓迎イベント（第1学期・第2学期）	
(3) 大豊学園との交流	
(4) 大方高等学校との交流	
(5) 朝倉中学校との交流	
3.4 留学生ガイダンス
(1) 留学生履修説明会（第1学期・第2学期）	
(2) 留学生オリエンテーション（第1学期・第2学期）	
(3) 帰国準備説明会（第1学期・第2学期）	

3.5 受入れに関するリクルート活動.....

- (1) 学校法人エール学園進学相談会 (in 大阪)
- (2) 関西語言学院進路相談会 (in 京都)
- (3) 四国国立 3 大学合同進学説明会 in 千駄ヶ谷日本語学校 (オンライン)
- (4) 四国国立 3 大学合同進学説明会 in 行知学園日本語学校 (オンライン)

4. 授業関連.....

4.1 グローバル教育支援センター開講日本語総合コース (第 1 学期・第 2 学期)

4.2 共通教育開講科目.....

- (1) 英語開講科目 (第 1 学期・第 2 学期)
- (2) 地域文化理解 (第 2 学期)
- (3) サマープログラム (Japanese Studies I / II) (第 1 学期)
- (4) 短期留学プログラム (第 1 学期・第 2 学期)
- (5) 短期海外ボランティアプログラム (第 1 学期・第 2 学期)

5. その他.....

- (1) 外国人留学生在籍状況
- (2) 自律学習支援センター (OASIS) との連携

参考資料.....

- (1) 交流協定校一覧 (大学間・部局間)
- (2) 海外派遣学生一覧

奥付

はじめに

グローバル教育支援センター長 今井 典子

グローバル教育支援センター (Global Education and Advancement Support Center) は、高知大学が掲げる「高知大学 Grand Design 2030」における「地域と世界を繋ぎ、未来を拓く国際人材の育成」という基本理念のもと、教育面から大学の国際化を推進することを目的として2022年10月に設立され、早くも3年半が過ぎました。本センターでは、この期間、学生一人ひとりが国際的な視野を持ち、自らの将来を主体的に考える力を養うことを重視し、留学支援および留学生受入れを柱とした多様な取り組みを行ってきました。

2025年度は、海外協定校との往来がコロナ禍以前の水準に着実に回復し、本学学生の留学への関心が一段と高まった一年でした。前年度と比べても、留学相談件数や各種イベントへの参加状況から、学生の海外志向がより明確になってきたことがうかがえます。本センターでは、第4期中期目標・中期計画(2022年度~2027年度)の達成に向け、留学促進を中心とした支援体制の充実を図ってきました。具体的には、留学説明会・報告会や留学フェア、各種ワークショップ、協定校間特別セミナー、危機管理セミナーなどを実施し、留学を「具体的な選択肢」として捉えられる機会の創出に努めました。

また、グローバルキャリアに関するセミナーの開催や、自律学習支援センター(OASIS)と連携した留学に必要な語学力向上を目的とする取り組みを通じて、留学前後を見据えた継続的な学修支援を行いました。増加する留学相談に対応するため、日本人教員2名による相談体制を維持・強化し、きめ細かな個別支援にも引き続き取り組んでいます。さらに、本センターでは共通教育科目として、「IELTS/TOEFL 対策講座」「英検対策講座」「プロフェッショナルコミュニケーションのための英語」「海外留学・旅行のための実践英語」「International Media and Journalism」など、多様なニーズに応じた科目を提供しています。これらの科目は、単なる試験対策にとどまらず、異文化理解力や実践的コミュニケーション能力の育成を含め、学生の英語運用能力の向上および異文化対応力の涵養に資するものであり、本学における国際化推進の基盤形成に貢献していると言えます。短期留学に関しては、海外協定校留学への動機付けや多様な学生ニーズへの対応を目的として実施している Short-term Study Abroad Program および Short-Term Volunteer Abroad Program がいずれも順調に実施され、また、サマープログラムを通じて海外協定校から学生を受け入れることで、本学学生との交流機会を創出し、双方向的な学びを通じた異文化理解の促進につなげることができました。

留学生の受入れ面では、日本語学習支援の一環として、3キャンパスにおいて日本語総合コースを開講し、初級から中上級までの段階別クラスを設けることで、多様な学習背景を持つ留学生に対応しました。加えて、協定校との遠隔授業や特別セミナーを通じて、日本文化および地域文化への理解を深める機会を提供するとともに、協定校との連携強化を図りました。共通教育においては、「地域文化理解」を開講し、日本人学生と留学生が共に学ぶ国際共修型の授業を実施しました。さ

らに、大阪・京都を中心とした日本語学校への訪問や説明会への参加など、留学生リクルートを目的とした広報活動にも積極的に取り組みました。

2026 年度に向けては、留学促進および優れた留学生の受入れを引き続き重要な課題と位置づけ、学生交流イベントの継続・充実を図っていきます。近年、東南アジアの協定校への関心が高まる一方で、中国、台湾、韓国といった本学協定校数の多い地域への留学希望が伸び悩んでいることから、今後もより丁寧な情報提供を通じて学生の選択肢を広げていきたいと考えています。

これらの取り組みを進めるにあたっては、各学部・専攻における専門教育との連携や、共通教育における英語教育の充実など、学内横断的な協力が不可欠です。多様な言語や文化的背景を持つ留学生と本学学生・教職員との交流を促進し、キャンパスの国際化を一層推進するとともに、地域の国際交流機関との連携を深めることで、地域社会の国際化にも貢献していきたいと考えています。

1.グローバル教育支援センター基本方針

センターの基本方針は大きく以下の3点である。

(1) 海外との教育交流の推進によるキャンパスの国際化

国際的な学生交流を推進、そして外国人留学生と日本人学生との交流を通して、互いに学びあうキャンパスを創造し、キャンパスの国際化を実現する。

(2) 外国語教育プログラムや学生の海外派遣の支援体制の充実による「希望者全員留学」の実現

英語をはじめ外国語の語学力向上のための講座提供の充実を図るとともに、留学相談により日本人学生の海外留学支援を行う。また、留学フェアやワークショップ、セミナーの開催などにより留学への意識を高める。

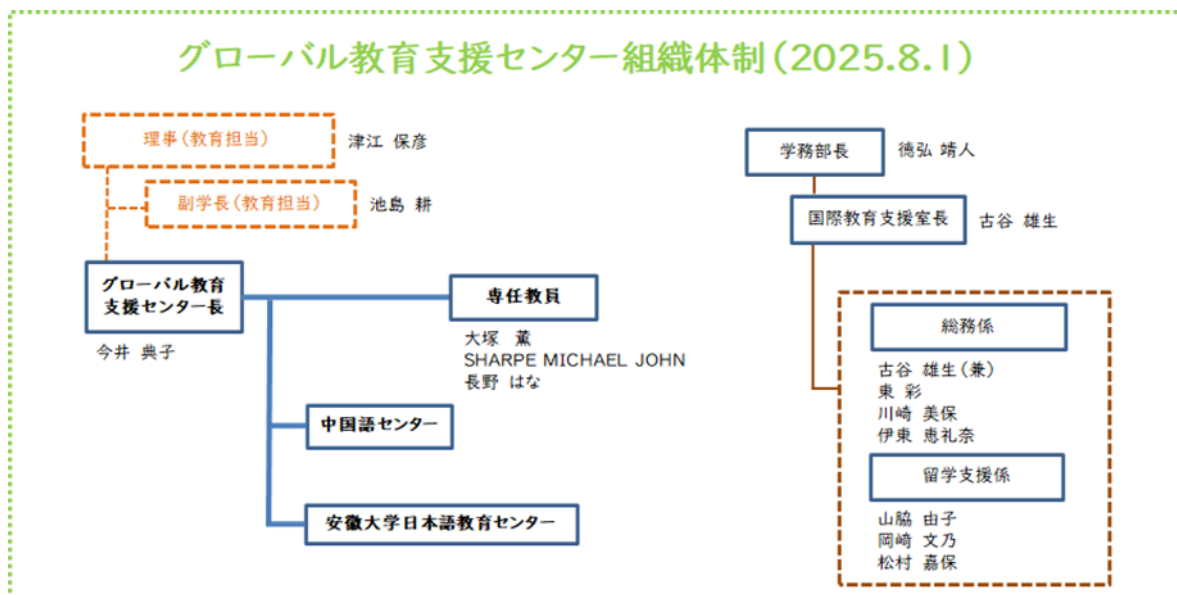
(3) 海外からの優れた留学生の受入の促進と留学生に対する日本語教育の充実

留学生の獲得に当たっては、協定校からの短期留学のみならず、私費留学生、国費留学生など長期留学生を積極的に獲得する。留学生に対しては、修学上及び生活上の指導助言を行なう。また、外国人留学生に対する日本語・日本文化・日本事情に関する教育を行う。



2. 組織

(1) 組織図



(2) スタッフ

副学長(教育担当) 池島 耕
 グローバル教育支援センター長 今井 典子

専任教員(教授) 大塚 薫
 専任教員(准教授) SHARPE MICHAEL JOHN
 専任教員(特任助教) 長野 はな

[学務部国際教育支援室]
 国際教育支援室長 古谷 雄生

[国際教育支援室総務係]
 国際教育支援室総務係長(兼) 古谷 雄生
 国際教育支援室総務係員 東 彩
 国際教育支援室総務係事務補佐員 川崎 美保
 国際教育支援室総務係事務補佐員 伊東 恵礼奈

[国際教育支援室留学支援係]
 国際教育支援室留学支援係長 山脇 由子
 国際教育支援室留学支援係員 岡崎 文乃
 国際教育支援室留学支援係事務補佐員 松村 嘉保

3. 活動報告

3.1 セミナー・ワークショップ

(1) グローバルキャリアセミナー

グローバル教育支援センターは、学生の国際的なキャリア形成の一助となることを目的として、海外で活躍された経験を持つ講師を招き、セミナーを実施している。2025年度は、国際協力機構（JICA）四国との共催で3回のセミナーを実施した。実施場所は第1回及び第3回が朝倉キャンパス、第2回が岡豊キャンパスで、合計71名が参加した。

1回目は、5月14日（水）15時00分～16時20分、本学学生を対象にセミナー「私にもできる国際協力@フィリピン」を開催し、20名の学生が参加した。国際協力機構（JICA）海外協力隊としてフィリピンで活動していた徳増綾乃さんを講師に招き、現地での活動内容、活動を行う上でぶつかった壁やその壁をどう乗り越えたかといった経験についてお話しいただいた。参加した学生からは、「地域に入って活動することの大変さと楽しさを体験談から感じる事ができた」、「現地の人に一方的に技術や文化を教えるのではなく、彼らが将来自立できるようサポートする姿勢に共感した。また、徳増さんの積極的に行動を起こす力の強さにも感心した」、「将来のキャリアの一つとして、青年海外協力隊を考えているので、今回のお話を聞いて良かった」などといった感想が寄せられた。セミナー終了後にもたくさん参加学生が残って、徳増さんに色々な質問をするなど、とても活気にあふれたセミナーとなった。

2回目は、6月9日（月）16時30分～18時00分に、医学部の学生を対象に「看護分野での国際協力」を開催した。JICA海外協力隊としてカンボジアの病院で活動された下司政代さんを講師に迎え、カンボジアの医療事情やご自身の活動内容、活動を行う上での楽しさ、難しさなどについてお話しいただいた。また、看護や医療分野で国際的に活動するには、どのような方法があるのかについても紹介いただいた。セミナーには、卒業後に国際的なキャリア形成を考えている学生や海外でのボランティアプログラムに関心のある学生ら8名が参加し、参加者はセミナー終了後も講師に熱心に質問をするなど、海外でのキャリアについて具体的に考える機会となった。

3回目は、12月16日（火）16時30分～18時00分に、「剣道×国際協力」を開催し、本学の学生、教職員、学外の方々など、合計43名が参加し、大盛況のセミナーとなった。

JICA海外協力隊として、コロンビアで活動されていた公文ひとみさん（高知大学卒業生）が登壇し、現地での剣道の指導の様子や、剣道を通じた日本文化の普及活動、活動中の困難な経験などについてお話しいただいた。公文さんは、コロンビアへの派遣以前にも、セルビアで剣道隊員として活動されており、剣道を通じて世界各地で活躍してきたお話に参加者は熱心に聞き入っていた。セミナー後のアンケートでは、参加者から「言語の壁や文化の違いがある中で剣道という共通の武道に取り組む姿を見て、自分も剣道をして良かったと思ったし、これから普及活動もしてみたいなと感じた」、「困難を乗り越えて活動を続けられ、終わりよければ全て良し、ピンチはチャンス、といっ

た公文さんのお話にこちらも元気づけられた。」といった感想が寄せられた。



第1回セミナーの様子



第1回セミナーの様子



第2回セミナーの様子



第2回セミナーの様子



第3回セミナーの様子



第3回セミナーの様子

(2)海外留学ワークショップ

グローバル教育支援センターは、毎学期、海外留学に向けて具体的な準備を進めたい学生を対象に海外留学ワークショップを開催しており、2025年度は下記日時で計4回実施した。橋本由紀子先生が講師を務め、合計35名の学生が参加した。参加した学生からは、「不明確だった留学のスケジュールの大まかな計画がわかってイメージしやすくなり、とても良かった。また、他の人と意見

を共有することでどんな目的で留学に行くのかが知れて勉強になった」、「他の参加者との交流で刺激を受け、自分ももっと頑張らなくてはと思える良い機会になった」といった感想が聞かれ、留学実現に向けて有意義な時間となった様子であった。

・1 学期開催分

【開催日時】第1回:6月11日(水)15:00~16:20、第2回:6月18日(水)15:00~16:20
参加者数:18名

第1回では、参加学生は、本学次世代地域創造センターの佐藤公平特任教授から、国際協力機構(JICA)の活動や自身の留学体験、国際協力の現場で求められている人材像についてお話いただいた。講演後、参加者は、希望の留学先や留学の目的、実現に向けたハードルなどについて意見交換を行った。

第2回では、「実際に留学計画を立てよう」というタイトルで、参加者がそれぞれブレインストーミングでなるべく多く留学目標を抜き出し、そこから優先順位の高いものを選び出し、その目標を達成するための方法論を考えるという、グループワークを行った。それによって、目標を達成するための具体的な方法を各自がみつけ、具体的な留学計画が立てられるような活動を行い、成果発表を行った。

・2 学期開催分

【開催日時】第1回:11月12日(水)15:00~16:20、第2回:11月19日(水)15:00~16:20

参加者数:17名

第1回は、本学次世代地域創造センターの渡邊元治特任教授を迎え、JICAの活動、ご自身のイギリスでの留学体験、留学計画を立てるにあたり大切なことや心構えについてお話いただいた。また、参加学生は、それぞれが希望する留学や目的などについて意見交換を行い、講師からアドバイスを受けた。

第2回は、交換留学中のイギリス・セントラルランカシャー大学(UCLAN)の学生が、日本留学を志したきっかけやUCLANの紹介を行った。また、参加者同士で意見交換をしながら、各々の留学計画を立て、留学を明確にイメージすることができた。

参加者からは、「実際の体験談を交えた話を聞いたので為になった」、「JICAについてのお話を聞けて参考になった」、「留学の計画など意見交換ができて良かった」といった声が上がった。



6月ワークショップの様子



6月ワークショップの様子



11月ワークショップの様子



11月ワークショップの様子

(3)海外留学フェア

2025年5月7日(水)、朝倉キャンパスにおいて、短期および長期の留学プログラムを広く学生に紹介するため、留学フェアが開催された。本イベントでは、留学経験者によるプレゼンテーションの他、協定校に関する情報提供やグローバル教育支援センター教員らによる留学の選択肢に関する個別相談が実施された。参加者は少数であったが、日程や会場の設定にあると考えられるため、来年度は参加者増に向けて会場の変更などを検討する。

(4)協定校間特別セミナー

<1 学期開催>

《「多文化社会を生きる」とは?》

講師:明知大学校 佐藤 揚子 助教授

2025年6月18日(水)に、高知大学グローバル教育支援センター主催の協定校間特別セミナーが行われた。講師には、韓国の協定校の明知大学校人文学部日本語日本文学専攻の佐藤揚子助教授をお招きし、「多文化社会を生きる」とは?というテーマで学生とやりとりをしながら講義が行われた。今回のセミナーは韓国から佐藤先生に接続していただきMicrosoft teams 上で行ったが、高知大学の留学生ならびに日本人学生のほか、海外の協定校である明知大学校の学生にもアクセスいただき、合計30名ほどの参加となった。

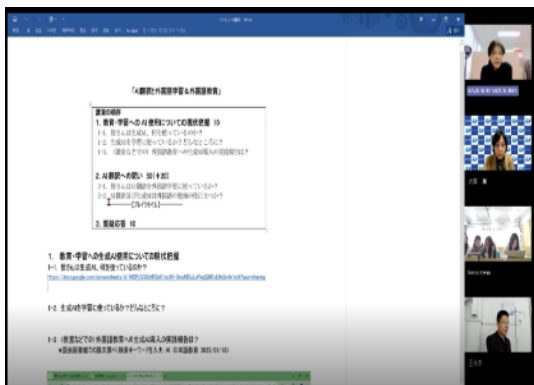
セミナーは、様々なバックグラウンドを持つ人と接する機会が増えてきた多文化共生社会において日本と韓国の身近な事例を比較し、文化やコミュニケーションの特徴について考えてみるという目的で行われた。また、セミナーでは具体的に日本と韓国の文化やコミュニケーションの特徴についてケーススタディをしながら参加した学生がそれぞれ相互理解のために大切なことを再考し、自文化を客観的に捉える貴重な機会となった。

参加した方々からは「多文化共生やグローバル社会について深く考える良い機会となった。ディスカッションにも積極的に参加し、他の参加者の意見を聞くことで新たな視点を得ることができた」、

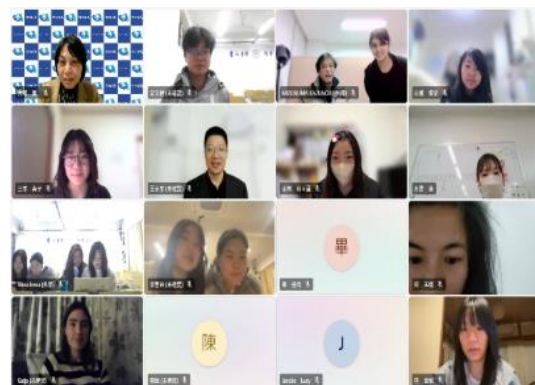
れた。今回のセミナーは韓国から水沼先生に接続していただき Microsoft teams 上で行ったが、高知大学の留学生ならびに日本人学生のほか、海外の協定校である韓国の明知大学校や中国の安徽大学からもクラス単位で参加していただき、合計 50 名ほどの参加となった。

セミナーは、効果的に外国語を学習するために生成 AI をどのように活用すれば良いかを考えてみるという目的で行われた。まず、参加者の生成 AI の利用頻度や利用目的などを確認した後、生成 AI を活用した翻訳の仕方について学んだ。実際の外国語学習につながる具体的な生成 AI の活用法として「フレーズ検索」や「クロスチェック」、「コロケーション」という観点から翻訳された文章を修正していく実践的な方法を学ぶ機会になった。最後に、若者言葉や方言に関しても生成 AI で翻訳を試みたことが紹介され、生成 AI を活用した自律的な学習法について確認する好機となった。

参加した学生からは、「セミナーで AI 翻訳ツールの具体的な活用例や、外国語学習における AI の利点と注意点が分かりやすく説明されたため、内容全体をしっかりと理解することができた」、「講師の説明は分かりやすく、AI 翻訳が単なる翻訳ツールではなく、外国語学習の補助としてどう活用するかが明確になった。自身の AI に関する知識不足を痛感したので、今後は AI ツールを積極的に活用しながら外国語能力を向上させたい」、「このセミナーを通じて、オンラインで様々な国や学校、専攻の異なるクラスメートたちと一緒に考えることができ、他の学生の AI 翻訳に対する見方を知ることができ、異なる視点を獲得することができた」等の感想が寄せられ、セミナーを通して充実した時間が共有できたことを非常に嬉しく思う。



セミナーの様子



オンライン参加の様子

(5)協定校からの留学生たち

<第1学期開催>

《アジアの協定校からの留学生たち～高知大学での学びと交流～》

2025年7月16日(水)3限にOASISのマルチメディア教室にて「アジアの協定校からの留学生たち～高知大学での学びと交流～」というテーマでセミナーが行われ、25名の学生が参加した。セミナーの目的は、高知大学に来ている留学生を身近に感じてもらう機会を提供するとともに、留学生を通して高知大学が協定を結んでいる大学や国について知ってもらい、留学希望者の増加を図ることである。また、OASISで実施しているパートナーシッププログラムについても、留学生の人となりを知ってもらうことで日本人学生の希望者を増やすことに繋げるという狙いもあった。

セミナーは、中国の北京外国語大学の李広さんと韓国の釜山外国語大学の朴珉建さんと関堤煥さん、インドネシアのブラビジャワ大学からサトリアさんがそれぞれの国や大学の魅力を紹介した。また、日本語を勉強したきっかけや高知に来た理由、高知に来てからのエピソードや留学を通して得た学び等を発表した。

参加者からの感想として、「協定校の学校の特徴を知ることができた」、「留学に興味を湧いた」等協定校についての理解や関心が深まったという声があった。また、「エピソードがとても面白かった」、「彼らの日本での経験が聞けて嬉しかった」等留学生の人柄を知ることにより親近感を持つことに繋がり、「留学生ともっと交流したい」という希望もあった。



中国の発表



韓国の発表



インドネシアの発表

<第2学期開催>

《協定校からの留学生たち～ヨーロッパ・中央アジア編～》

2025年12月10日(水)4限にグローバル教育支援センターの国際交流スペースにて「協定校からの留学生たち～ヨーロッパ・中央アジア編～」というテーマでセミナーが行われ、28名の学

生が参加した。セミナーの目的は、高知大学に来ている留学生を身近に感じてもらう機会を提供するとともに、留学生を通して高知大学が協定を結んでいる大学や国について知ってもらい、留学希望者の増加を図ることであり、第 1 学期のアジア編に引き続き、ヨーロッパ地域からの留学生に紹介してもらった。また、OASIS で実施しているパートナーシッププログラムについても、留学生の人となりを知ってもらうことで日本人学生の希望者を増やすことに繋げるという狙いもあった。

セミナーは、イギリスのセントラル・ランカシャー大学のルーシーさんとカザフスタンのカザフ国立大学のアヤラさん、スウェーデンのイエーテボリ大学からカッティヤさんがそれぞれの国や大学の魅力を紹介した。また、日本語を勉強したきっかけや高知に来てから感じた文化の違い、クリスマスが近いと、各国のクリスマスの過ごし方等を発表した。その後、サンドイッチやケーキ、お菓子等を食べながら 3 グループに分かれて交流を深めた。交流の場では、軽食を用意したことで雰囲気は和らぎ、参加者と留学生との会話も自然に広がり、終始活発な交流が見られた。

参加者からは、「これまで行ったことのない国についての紹介を見たり、直接話を聞いたりすることができ視野が広がった」、「留学生の発表が非常に分かりやすく、内容も興味深かった」といった前向きな感想が多く寄せられた。また、交流を通じて異文化への理解が深まったという意見も多く見られ、本セミナーが参加者の国際理解を深める有意義な取り組みの一環となったと感じた。



イギリスの発表



スウェーデンの発表



カザフスタンの発表



交流の様子

(6)海外危機管理セミナー

グローバル教育支援センターは、留学やスタディツアーなどで海外に渡航予定の学生を対象に、海外危機管理セミナーを年 2 回実施している。2025 年度は、第 1 回を 6 月 4 日(水)、第 2 回を 12 月 3 日(水)にそれぞれ実施し、第 1 回は 8 名、第 2 回は 9 名の合計 17 名が参加した。当セミナーは、交換留学を控えた学生を対象に実施している「留学準備モジュール」の一部にもなっているため、主な参加者は交換留学予定者、短期留学プログラム参加予定者であった。

2025 年度は、2 回ともセンター教員が講師となり、セミナーを実施した。セミナーでは、海外渡航をする際に気を付けるべき行動や心構え、渡航前にしておくべき準備などについて、具体的な事例を交えながら紹介した。また、セミナーの最後には、参加者が 2~3 名のグループに分かれ、具体的な事例シナリオに基づいて、海外滞在中に危機的状況に遭遇した場合の対応を想定したシミュレーションを行った。シミュレーションを通じて、想定外の事態が起きた際に必要となる判断や対応についての理解を深めた。

3.2 海外派遣留学

(1)海外留学説明会&留学体験報告会(第 1 学期・第 2 学期)

グローバル教育支援センターは、留学に関する基本的な情報を学生に提供するため、海外留学説明会を毎学期実施しており、説明会の中で交換留学経験者による留学報告も行っている。2025 年度は、4 月 23 日(水)及び 10 月 22 日(水)にそれぞれ実施し、1 学期 47 名、2 学期 29 名の合計 76 名が参加した。説明会では、高知大学在学中に留学する方法として、交換留学制度や短期プログラムなどを紹介し、留学に向けて準備すべきことやセンター提供の留学関連行事について説明した。その後、留学報告が行われ、参加者たちは留學生活の具体的な情報を得ることができた。

4 月に実施した説明会では、交換留学から帰国した 4 名の学生(韓国・明知大学、台湾・東海大学、ベトナム・ハノイ工業科学大学、スウェーデン・イエーテボリ大学)が登壇し、留学報告を行った。まず、登壇者は、留学先の国、大学の様子をそれぞれ紹介した後、座談会形式で留学のきっかけ、留学にかかった費用、履修科目等、留学経験について話した。

10 月の説明会では、交換留学から帰国した学生 4 名(イギリス・セントラルランカシャー大学、韓国・釜山外国語大学、チェコ・南ボヘミア大学、スウェーデン・イエーテボリ大学)が、それぞれ留学報告を行った。参加者は、説明会終了後に登壇者に個別で質問をしており、留学の具体的なイメージを持つことができた様子であった。



海外留学報告（10月開催）



海外留学報告（10月開催）

(2) 留学準備モジュール

グローバル教育支援センターでは、交換留学や短期語学留学など海外留学を控えた学生を対象に、留学準備モジュール(SAP: Study Abroad Preparatory Module)を実施している。本モジュールは、海外留学に際し必要となる様々なスキルや知識を伝え、より充実した留学期間を送れるよう支援することを目的として実施している。2025年度は各学期にそれぞれ以下の日程で実施した。

2025年度1学期(全3回)

	日時	テーマ	内容	参加人数
Session 1	5/21(水) 4, 5 限	異文化理解 WS	アクティビティなどを通じて異文化理解力をつけるためのワークショップ	9名
Session 2	5/28(水) 4, 5 限	留学準備	・留学の目標設定 ・交換留学経験者との意見交換	11名
Session 3	6/4(水) 4 限	留学準備	海外での危機管理(セミナー)	8名

2025年度2学期(全3回)

	日時	テーマ	内容	参加人数
Session 1	12/3(水) 5 限	留学準備	海外での危機管理(セミナー)	10名
Session 2	12/10(水) 4, 5 限	留学準備	・留学の目標設定 ・交換留学経験者との意見交換	4名
Session 3	12/17(水) 4, 5 限	異文化理解 WS	アクティビティなどを通じて異文化理解力をつけるためのワークショップ	3名

2025年度の主な参加者は、同年度中に交換留学に出発する学生、共通教育科目「Short-term Study Abroad Program (短期留学プログラム)」及び「Short-term Volunteer Abroad Program (短期海外ボランティアプログラム)」履修者で、長期休暇中に海外留学予定の学生などであった。1学期は、のべ28名、2学期はのべ17名が参加した。参加者の中には、初めて海外に行く学生もおり、本モジュールを通じて海外に行く際の心構えや異文化理解、危機管理などを学ぶことができた。また、今年度から交換留学経験者との意見交換セッションを設けており、1学期は韓国、スウェーデン、台湾への交換留学経験者、2学期はイギリスへの交換留学経験者が参加し、留学先での生活の様子や留学に向けて準備すべきことなど具体的な情報共有を行った。

(3)個別留学相談

グローバル教育支援センターでは、海外留学に関心のある学生を支援するため、教員による個別留学相談を行なっている。学生は、国際交流ホームページにあるフォームもしくは担当教員に個別で申込みを行い、30分から1時間程度、担当教員と1対1で面談を行い、留学に関する相談を行う。相談内容は、正課での留学(交換留学、短期プログラムなど)や私費留学など様々であり、複数回にわたって利用する学生も多い。また、相談時に交換留学応募の語学要件に達していない学生も多くいるため、語学試験対策についての相談も行なっている。

1学期は、相談件数47件、相談人数41人、2学期は相談件数32件、相談人数26人(2026年2月5日時点)であった。1学期に相談を実施した学生のうち、4名が交換留学、3名が短期留学プログラムに参加、また2学期に相談を実施した学生のうち、9名が交換留学に応募しており、1名が短期留学プログラムに参加予定である。このことから、学生が具体的な留学準備のためのステップとして留学相談を活用していることがうかがえる。

留学希望先の傾向としては、昨年はアジア地域を希望する学生が多かったが、今年度はヨーロッパ地域を希望する学生が増加している。ヨーロッパへの留学を希望する学生のほとんどは、交換留学希望者だった。今後の課題として、個別留学相談を受けたが、実際に留学に至らなかった学生の理由を探り、留学を希望する学生がなるべく多く留学実現に向かえるような支援のあり方を模索している。

学部別相談人数

	1学期	2学期
人文社会科学部	25人	18人
農林海洋科学部	5人	2人
医学部	2人	—
地域協働学部	3人	—
理工学部	3人	3人
教育学部	3人	1人
大学院	—	2人

学年別相談人数

	1学期	2学期
1年生	13人	4人
2年生	16人	17人
3年生	10人	2人
4年生	2人	1人
大学院	—	2人

相談内容

(複数回対応の場合は第 1 回目相談内容に基づく)

	1 学期	2 学期
留学の基本情報について	9 人	6 人
正課での留学(交換留学・短期留学など)について	23 人	18 人
私費留学について	8 人	2 人
その他(海外大学院への進学など)	1 人	—

希望する留学先地域

(1 学期及び 2 学期の合計。カッコ内は昨年度の人数。複数回対応の場合は第 1 回目相談内容に基づく)

ヨーロッパ	北米	オセアニア	アジア	中南米	アフリカ	英語圏	複数地域	未定
27 人 (16 人)	1 人 (1 人)	2 人 (0 人)	15 人 (29 人)	2 人 (1 人)	1 人 (0 人)	4 人 (6 人)	11 人 (9 人)	4 人 (3 人)

(4)トビタテ！留学 JAPAN

グローバル教育支援センターでは、文部科学省の主催する留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」の新・日本代表プログラム(海外留学を希望する学生に返済不要の奨学金を支給)へ応募する本学学生へのサポートを行なっている。同プログラムの応募に際しては、留学計画の内容や書き方が重視されるため、説明会の開催やセンター教員による個別ブラッシュアップなどの支援を実施している。

2025 年度(第 17 期)募集では、応募書類のブラッシュアップ、書類選考を通過した学生への面接指導などを複数回行った。その結果、博士課程(総合人間科学研究科応用自然科学専攻)の学生 1 名が合格し、インドネシアに留学した。

また、2026 年度(第 18 期)募集に向けて、2025 年 11 月 12 日に学内向け説明会を対面及び Zoom によるハイブリッド開催した。説明会では、まず、センター教員からプログラム概要や応募方法・日程についての説明をした後、本学卒業生でトビタテ 10 期生としてラオスに留学した荻野なつれさんから応募書類の書き方についてオンラインで説明いただいた。さらに、第 17 期に合格した博士課程の学生が対面で、留学計画書や自由記述書の書き方など、自身の経験を元に紹介した。第 18 期募集では、5 名の学生が応募予定である。



学内説明会の様子

(5) グローバル・エデュケーション・サポート・センター新聞

グローバル教育支援センターのニュースレター「The Globe」2025年度版は、2025年秋に刊行された。本ニュースレターは日本語と英語の両言語で作成されており、留学および国際化に関する活動を促進することを目的としている。センターの活動に関するニュースに加え、大豊学園との交流活動や、留学生向けイベントに関する記事が掲載された。さらに、チェコやスウェーデンに交換留学していた学生や、オーストラリア、イギリス、ニュージーランドに短期留学に参加した学生による記事も掲載された。加えて、2025年度版からは、ボランティアプログラムで海外に渡航した学生からの寄稿も掲載された。

3.3 交流活動

(1) 大豊町における茶摘み体験（地域交流事業）

2025年5月10日（土）に、大豊町の地域の方や町役場等のご協力の下、34名の留学生及び日本人学生が参加し、地域の方との交流とともに、地域伝統文化の体験活動（茶摘み体験）を行い、地域とのかかわりを深めた。当日は晴天に恵まれ、皆で楽しみながら茶摘みの作業ができた。茶摘み作業終了後、立川刈谷多目的集会所に活動場所を移動し、集落活動センター「そばの里 立川」立川地区活性化推進委員会の吉川会長より、「日本におけるお茶の歴史」のテーマで、お茶の種類や作り方、お茶の産地等についてご紹介いただいた。その後、摘み立ての茶葉を釜で炒る作業、専用の機械で炒った茶葉を揉む作業、そして板の上に揉まれたお茶の葉を手で拵げて、乾燥しやすいように並べる作業をグループごとに体験した。昼食は地元で採れたエゴマや銀不老豆等の食材をふんだんに使った地元住民手作り

のお弁当を堪能した。昼食後、6グループに分かれて地元の方へのインタビュー活動を行い、地域の方との相互理解、相互交流を深めた。また、インタビュー活動後、本学教育学部の福住先生のご指導の下、地元の方々とともにけん玉やお手玉を体験し、拍手や喝采で大変な盛り上がりを見せた。その後、旧立川番所書院を見学し、書院の歴史について学ぶ機会を得た。

本活動に参加した留学生及び日本人学生からは、下記のような感想が寄せられた。

<お茶摘み体験>

・お茶摘み体験では、日本がお茶の文化を大切にしていることがよくわかった。自分の手で茶葉をひとつひとついねいに摘むのは大変だったが、友だちと一緒にやったので、とても楽しく、笑いながら過ごすことができた。きれいな自然の中での作業は気持ちよくて、時間がたつのを忘れるほどだった。この体験はとても不思議で楽しく、思い出に残る特別な体験になった。

・お茶の作り方がこのように複雑で丁寧な過程が必要だなんて全然知らなかった。もっとお茶を美味しく飲めそうだ。

・茶摘みを通じて、たくさんの友達を作ることができたし、茶文化に関する知識も知ることができて、とても面白かった。

<お茶作り体験>

・お茶作りを体験できたのは、とても貴重だった。自分で作ったお茶の香りと味は特別で、忘れられない経験になった。

・茶葉を摘んだ後、自分で炒ったり、手でもんだり、日なたに干したりした。茶葉のにおいや色が少しずつ変わっていくのを見て、お茶ができていくことを実感できた。どの作業も丁寧にやるのが大事で、簡単ではなかったが、とてもおもしろかった。お茶作りにはたくさんの手間と時間がかかることを知って、ふだんのお茶がもっと特別に感じた。

・茶葉を加熱したり揉んだりするだけで緑茶の香りがすごくして驚いた。煙などで作業がつらいのではないかとも思っていたが、いい香りがしていて楽しい作業であると感じた。

<お茶についての講義>

・お茶が中国から日本を経由してヨーロッパに広まったことを初めて知った。また、中国から輸入されてきたものが今も栽培されていること、抹茶と緑茶などの違いなど、お茶に関して知らないことがたくさんあって、今までお茶に対して持っていた印象が変わった。

・お茶の栽培には多くの手間と時間がかかることや、品質を保つための工夫など、普段何気なく飲んでいるお茶の裏側を知ることができた。

・お茶の起源と由来について勉強した。特に、Chinaの発音はチャも含まれていることは初めて聞いた。そして、緑茶とウーロン茶と紅茶の区別についても勉強した。

・吉川さんのお茶の話はとてもわかりやすく、お茶の由来から種類まで詳しく説明していただいた。

<インタビュー&地域の方との交流活動>

・地域の方々はとても親切で温かく、気軽に話しかけてくださって嬉しかった。山の中の暮らしにも憧れを感じ、自然と共に生きることの豊かさを改めて思った。

・移住されてきた方からのお話で、大豊町が山の水を利用していることを知り、何だか羨ましく感じた。久々に自然に触れたし、自然と暮らしている感覚をすごく感じられた。

・地域の方々との交流を通じて、多くのことを学んだ。この交流を通じて、地域の人々の生活や文化に対する理解が深まり、改めて日々の努力の大切さを実感した。こうした貴重な経験は、今後の自分の人生にも大きな影響を与えらると思う。

<旧立川番所書院見学>

・高知県の旧立川番所書院を見学して、江戸時代の治安や交通管理について学んだ。旧立川番所は、旅人の身分を確認したり、荷物をチェックしたりしていた場所だ。実際に使われていた道具や展示物を見て、当時の人々がどのように社会を守っていたのかを理解することができた。特に、番所書院の建物やその役割がとても興味深かった。この見学を通じて、歴史を学ぶことの大切さを感じ、過去の人々がどのように社会を支えていたのかを実感した。

・立川番所の見学では、歴史と伝統を感じることができた。普段の生活では味わえない学びがあり、非常に興味深かった。

・立川番所は、歴史の流れとともに、役目を変えていながらも、現在は地域の人々の支えのもと、存続しているのだということがわかった。ただそこに在るだけでは、人々の関心は薄れてしまうため、イベントを開くなど建物に目的を持たせることで、人々に足を運んでもらえるよう取り組んでいることを学んだ。



茶摘みの様子



お茶作りの様子



地元の方との交流活動



旧立川番所書院前で集合写真

(2) 留学生歓迎イベント

<第1学期>

2025年4月9日(水)に4月に高知大学に到着した13名の交換留学生や研究生を歓迎するため、学生有志の主催で交流イベントを実施した。新たに来日した交換留学生に加え、すでに高知大学で学んでいる留学生、日本人学生を含め参加者は計38名であった。参加者はよさこい体験、キャンパス内とその周辺の散策、けん玉などの日本文化体験など多様なアクティビティを通じて交流を深めた。



けん玉体験



集合写真



よさこい体験



交流の様子

<第2学期>

2025年10月1日(水)に9月に高知大学に到着した30名の交換留学生や研究生を歓迎するため、学生有志の主催で交流イベントを実施した。新たに来日した交換留学生に加え、すでに高知大学で学んでいる留学生、日本人学生を含め参加者は計64名であった。参加者はグループに分かれ、イントロゲームやジェスチャーゲーム、お絵描きゲームでグループで対抗し仲を深め、よさこい体験等のアクティビティを通じて交流を深めた。



ジェスチャーゲーム



お絵描きゲーム



クイズ大会優勝チーム



集合写真



よさこい体験



集合写真

(3)大豊学園との交流

大豊町立大豊学園生徒との英語交流会Ⅲ

2025年7月10日(木)に、大豊町立大豊学園9年生(中学3年生)14人が実践的な英語教育の一環として高知大学を訪れ、本学の留学生5名と英語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との英語交流の経験により英語表現力を高める機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、インドネシアからサトリアさん、ララスさん、ズファリさん、ネパールからラツアナさん、中国から張礼祺さんが交流会に参加した。

今回は3回目の交流となったが、夏休みにオーストラリア研修に行く際に大豊町の紹介をそれぞれの生徒がするので、5名の留学生を囲んで小グループに分かれて10分間ずつ自己紹介や大豊町に関するプレゼンをし、それについてグループメンバーで英語で語り合った。10分経過した後、次のグループに移動しプレゼンと話し合いをしあい、5回のグループ活動が行われた。大豊学園の生徒からは「樹齢3,000年の大杉さん」や「アウトドアを楽しむ吉野川」、「自然豊かな梶ヶ森」など地元の大豊町の紹介があり、グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持って英語で発表している様子がうかがえた。大豊学園の生徒からは「自分のプレゼンにアドバイスをしてくれ、より良い紹介動画が作れ感謝している」、「アドバイスを基に、オーストラリア研修までにもっと良いものを作りたい」、「もっとスムーズに英語が話せるよう努力したい」という声が聞かれ、さらに練習していきたいという意欲が感じられた。

留学生からも「自分の町である大豊町についてよく調べてきており積極的に交流してくれ感心した」、「生徒さんが大豊町のことを紹介してくれ勉強になった。発音がきれいなので、もう少し大きい声で自信を持ってプレゼンするようアドバイスをした」、「大豊町の自分の家で経営しているカフェやレストランの紹介もあった。ぜひ訪れてみたい」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。



交流会の様子



グループ活動



グループ活動



記念撮影

大豊町立大豊学園生徒との英語交流会 I

2025年11月17日(月)に、大豊町立大豊学園8年生(中学2年生)10人が実践的な英語教育の一環として高知大学に訪れ、本学の留学生5名と英語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との英語交流の経験により英語表現力を高める機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、マレーシアからイザットさん、ネパールからスレスさん、ラツァナさん、ビノドさん、インドネシアからアグラさんが交流会に参加した。

まず、大豊学園生徒による英語での大豊町の大杉や立川番所、ゆとりすとパーク等の観光地や地域のお祭り、基石茶等の特産品、人気のある飲食店に関する紹介があり、留学生は自然豊かな大豊町での生活について興味深く耳を傾けていた。

その後、イザットさんからマレーシアの多様性についての紹介があった。冒頭マレーシアの旗やマレーシアの位置についてクイズが出されたが、皆事前に勉強してきたようで、正解率が高かった。そして、マレーシアはマレー系と中華系、インド系の人々により社会が構成されており、言語や宗教、食べ物などの文化が異なるが、英語が共通語なのでマレーシア人は英語が話せるとの説明があり、皆感心していた。

続いて、アグラさんによるインドネシアの概要と文化についての紹介があった。インドネシアは1,300の民族により構成され700以上の言語が話されており地域により特徴的な気候や習慣、文化が発展しているとの説明に皆興味津々だった。インドネシアの多様な民族文化の中から伝統的な影絵芝居の「ワヤン(Wayang)」やろうけつ染めで模様が染められた布地である「バティック(Batik)」、竹製の伝統的な打楽器の「アングルン(Angklung)」、生きた恐竜とも呼ばれる世界最大のトカゲである「コモドドラゴン」などの説明があった。また、ジャコウネコがコーヒーの実を食べて消化されずに出てきた希少なコーヒー豆「コピルアク(Kopi Luwak)」についての説明もあり、皆文化の違いに驚いていた。

最後に、ビノドさんとラツァナさんによるネパールの概要と自然、首都のカトマンズについての紹介があった。ネパールは世界で一番高い山「エベレスト」があり、仏陀が生まれた

場所で、旗は世界でも珍しい特徴的な三角の形が二つ連なる形をしていることが紹介され、皆興味深く頷いていた。また、自然が豊かで美しく、珍しいベンガル虎を見に行くツアーや滝下りをするラフティング、自然の中でのトレッキングやバンジージャンプ等が紹介された。首都のカトマンズには多くの寺があり、猿がいる寺やカラフルな旗がはためきストウーパに眼が描かれている寺が紹介され、皆興味深い様子だった。

それぞれの発表が終わった後、5名の留学生を囲んで小グループに分かれて7分間ずつ自己紹介や発表に対する質疑応答、「好きなもの」についてグループメンバーで英語で語り合った。7分経った後、次のグループに移動し質疑応答と話し合いをし、5回のグループ活動が行われた。グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持って英語でコミュニケーションが取れる様子がうかがえた。そして、交流会が終わりを迎える頃には皆すっかり打ち解けており、大豊学園の生徒からは「英語を聞き取るのが難しかったが、コミュニケーションが取れて楽しかった」、「マレーシアやインドネシア、ネパールのことが知れ、とても良い交流の機会になった」、「もっと英語を勉強してスムーズに交流したい」、「マレーシアやインドネシア、ネパールに行ってみよう」という声が聞かれ笑顔が溢れていた。

留学生からも「皆積極的に自己紹介をし質問もしてくれ、英語での交流を楽しんでいた。短い時間だったが、とても楽しかった」、「生徒がそれぞれ名刺を用意し、自分の好きなものを紹介してくれ感心した」、「次回はぜひ大豊町に訪れてみたい」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。



大豊学園生徒の発表



マレーシアの発表



ネパールの発表



インドネシアの発表



グループ活動



集合写真

(4)大方高等学校との交流

2025年12月12日(金)に、高知県立大方高等学校2年生32名が多文化共生社会をテーマとした探究学習の一環として高知大学に訪れ、本学の留学生12名と日本語で交流した。今回の活動は、本学の留学生との交流を通し、様々な立場の人の話を聞くことで多文化共生についての問題を多角的な視点でとらえる機会とするとともに、異文化に触れる経験を通して国際理解を深めるという目的で行われ、中国から陳基さん、陳鈺さん、鄧博毅さん、王安逸さん、陸佳怡さん、マレーシアからファイズさん、イザットさん、ネパールからラツァナさん、台湾から潘弘文さん、韓国から權是源さん、カザフスタンからアヤラさん、イギリスからルーシーさんが交流会に参加した。

まず、本学の留学生による7ヶ国・地域の紹介と各人の日本語との出会い、日本に来て感じた文化差の発表が行われ、高校生はそれぞれの留学生の出身地の多様性に感心したり、同じアジアの国でも新たな発見があったりして興味深く耳を傾けていた。また、留学生が日本語を勉強し始めたきっかけが自分たちも楽しんできた漫画やアニメであったり、専門の

学習や研究するために必要であったりした点に親しみを感じているようであった。文化差についても、「日本人の礼儀正しさ」や「ゴミの分別の細かさ」、「時間の正確さ」など同世代の留学生たちが感じる日本について様々な角度から客観的に考えるきっかけになったという声が聞かれた。

それぞれの発表が終わった後、12名の留学生を囲んで6グループに分かれて15分間ずつ自己紹介や発表に対する質疑応答、高校生が探究学習で調べてきたテーマについてグループメンバーで語り合った。15分経った後、次のグループに移動し質疑応答と話し合いをし、3回のグループ活動が行われた。グループを移動するごとに皆表情が柔らかくなり、自信を持ってコミュニケーションが取れる様子がかがえた。そして、交流会が終わりを迎える頃には皆すっかり打ち解けており、大方高等学校の生徒の制服を留学生が着て一緒に写真を撮る姿も見られた。

大方高等学校の生徒からは、「留学生は皆コミュニケーション力があり、日本語がペラペラだった。ゆっくり日本語を話し伝わりやすいよう工夫してきちんとコミュニケーションが取れて楽しかった」、「外国のことや外国から見た日本を知ることができ有意義だった」、「色々な留学生と話すことができ、決めていた質問以外にも話せて嬉しかった。楽しすぎてもっと交流したかった。時間がもう少しほしかった」、「発表してくれた国に行ってみたいと思った」、「多文化共生はやはり相手を知るところから始まると思った」という声が聞かれ笑顔が溢れていた。

留学生からも「本日の交流会は、皆の発表も面白く、大方高等学校の生徒からの質問も非常に興味深く、楽しく交流できた。もし機会があれば、ぜひこのような交流会にまた参加したい」、「自分の国の文化を高校生に紹介でき、嬉しかった。高校生と互いに活発な意見交換が行われ、日本の文化の理解がより深くなり、本当に有意義だった」、「どのグループも最初は少し緊張していて、全体的に皆とても恥ずかしそうだった。しかし、グループ活動をしていくうちに雰囲気はよくなり、恥ずかしさはあったが、皆とても友好的で円滑に交流することができた」という感想が寄せられた。皆それぞれが異文化を知るきっかけになり交流が深められ、充実した時間を過ごすことができた。



イギリスの発表



ネパールの発表



中国の発表



グループ活動



グループ活動



グループ活動



集合写真

(5) 朝倉中学校との交流

2026年1月31日(土)に朝倉小学校区青少年育成協議会主催による朝倉中学校の生徒を対象にした料理教室が、朝倉ふれあいセンターにて開催された。今回のテーマは「ネパール料理に挑戦!」で、本学のネパールからの留学生、ラツアナさんとスレスさんが講師に招かれ、「鶏肉とほうれ

ん草のカレー」、「野菜プラオライス」、「ポテときゅうりのサラダ」、「レンズ豆のスープ」、「ミルクティー」の作り方を指導した。朝倉中学校の生徒たちは、料理の作り方の説明に熱心に耳を傾け、レシピを見て質問しながら一品ずつチャレンジしていった。料理はなかなかの出来栄えて、参加者一同でネパールの本場の家庭料理を味わった。

料理を味わった後、ラツアナさんからネパールの概要や挨拶、日本語との出会い、ネパールと日本の文化の違いが紹介され、中学生たちは日本との違いに興味深そうに頷いていた。中学生からは「普段食べている日本のカレーやご飯とは違い、貴重な異文化体験ができて大変うれしく思う」、「作り方が複雑だと思ったが、案外簡単にネパールのカレーが作れることが分かり、家でも作ってみたい」、「エベレストを始めとした自然やブッダの生まれた国などネパールについて知れて興味深かった」等の感想が寄せられた。講師を務めた学生からは、「皆さんと楽しみながらおいしい料理が作れて嬉しかった。これを機に、ネパールについても興味を持ってもらいたい」との感想があった。

当日は中学校の生徒たちだけでなく、朝倉中学校の先生及び青少年育成協議会のメンバーも参加され、総勢 15 名の参加となり、食を通じて国際交流、異文化理解を図ることができた。



料理を通じた交流の様子



ネパール式カレー調理の様子



完成したネパール料理



ネパールの紹介の様子

3.4 留学生ガイダンス

(1) 留学履修説明会

日時：(第1学期)2025年3月31日(月)

(第2学期)2025年9月19日(金)

概要：グローバル教育支援センターで開講している日本語授業を受講するためのプレースメントテストを受ける前に、交換留学生対象の履修説明会が行われた。留学生を対象としている日本語関係の授業であるグローバル教育支援センター開講の日本語総合コースや共通教育日本語・日本事情科目、教育学部・人文社会科学部の専門科目を中心に詳細な説明がなされた。

また、授業科目の履修登録の方法や受講時の留意点、シラバスの検索方法等を紹介し、履修登録に関する質問を受け個別相談にも応じた。留学生は渡日したばかりで緊張した面持ちで真剣に説明を聞いていたが、積極的に質問をする学生も見られ留学生活に対する期待感が感じられた。



会場の様子

(2) 留学生オリエンテーション(第1学期・第2学期)

日時：(第1学期)2025年3月28日(金)

(第2学期)2025年9月22日(月)、9月24日(水)

概要：新入留学生オリエンテーションを第1学期は3月28日、第2学期は9月22日と9月24日に開催した。各回の内容は下表のとおりである。また、4月9日と10月1日には留学生歓迎イベントを開催し、新入留学生と在来留学生、日本人学生が情報交換するなど懇親を深めた。

第1学期

- グローバル教育支援センター教員紹介
- 保健管理センターからのお知らせ
- 学び創造センターからのお知らせ
- 情報セキュリティ講習
- 高知大学生生活協同組合からの案内
- 留学生活についての諸注意
- 自立学習支援センターの紹介

第2学期

第1回目(9月22日)

- グローバル教育支援センター教員紹介
- 情報セキュリティ講習
- 防犯・交通マナー教室:高知南警察署
- 高知大学生生活協同組合からの案内

第2回目(9月24日)

- 保健管理センターからのお知らせ
- 学び創造センターからのお知らせ
- 留学生活についての諸注意
- 自立学習支援センターの紹介

(3) 帰国準備説明会(第1学期・第2学期)

日時:(第1学期)2025年6月25日(水)

(第2学期)2026年1月7日(水)

概要:留学期間を終えて帰国する交換留学生を対象とした帰国準備説明会を開催した。国際教育支援室担当職員から、学内手続き関係(帰国後の連絡先、貸出物の返却など)、市役所での手続き(住民票転出届及び国民健康保険証の有効期限変更)、銀行等での手続き(銀行(郵便局)口座の解約)、住居の手続き(宿舍等退去手続き、部屋の点検、家賃支払い、電気・ガス・水道代・インターネットの解約と支払い、部屋の片づけ、ゴミの分別・処分)、スマートフォンの解約、在留カードの返還など、帰国前に留意しておいてほしいことについて、丁寧に説明を行った。

また、国際教育支援室から、留学終了後もホームページ、Facebook などを通して、高知大学とのつながりを継続してほしいと伝えた。

3.5 受入れに関するリクルート活動

(1)学校法人エール学園進学相談会 (in 大阪)

日時：2025年6月25日(水) 9:00~11:50

場所：エール学園5号館

主催：エール学園

来場者：応用日本語学科、日本語教育学科在籍の留学生 38名

【タイムスケジュール】

9:00 ~ 9:15 受付

9:15 ~ 9:30 当日の流れについて説明

9:30 ~ 10:00 設営・準備

10:00 ~ 11:50 進路オリエンテーション(説明会) 30分×3回

説明会① 10:00 ~ 10:30

説明会② 10:40 ~ 11:10

説明会③ 11:20 ~ 11:50

11:50 ~ 後片付け後、解散

【当日参加留学生：計38名】

説明会①：15名、説明会②：14名、説明会③：9名

【活動内容】

2025年6月25日(水)エール学園にて、27大学、15専門学校が集まり、「2025年度留学生進路オリエンテーション」が行われた。高知大学の資料としては「高知大学2025大学案内」と「2026年度学生募集要項」を当日教室で配布し、高知大学の教育組織、教育内容、入学試験、その他大学の特色等について説明するとともに、留学希望者からの質問に対応した。質問としては、申し込み時の書類についてや入試の内容・配点、複数の学科が受けられるかという質問があった。興味のある学生は8月2日(土)・3日(日)に開催されるオープンキャンパスに参加してほしい旨を周知した。当日参加した留学生の詳細は、以下の通りである。

高知大学のブースに来た留学生数：38名

(ミャンマー：13名、ベトナム：11名、中国：8名、スリランカ2名、バングラデシュ：1名、モンゴル：1名、インドネシア：1名、台湾：1名)

<希望学部> (延べ数)

人文学部：10名

理工学部：23名

医学部：4名

農林海洋科学部：2名

エール学園では、20ヶ国・地域から1,575名の学生が在籍しており、今回の進学オリエンテーションに参加した学生は、進学を考えている応用日本語学科ならびに日本語教育学科の学生900名である。

エール学園の学生の内訳としては、ベトナム531名が最も多く、ネパール439名、中国176名、ミャンマー134名、パキスタン67名、スリランカ46名と続く。国による特徴としては、東南アジア・南アジアの学生は、専門学校や就職希望者が多く、中国を代表とする漢字圏の学生は大学院進学希望者が多い。ベトナムは2024年度に比較し158名減少したそうで、今後も減少していくと予想される。ネパールは英語ができる学生が多いが、日本は欧米よりも学費が安く治安が良いため、来日するようだ。ミャンマーは、軍事クーデターが起こり政情不安が続いているため、2024年度に比較し2倍増加したそうで、真面目な学生が多く特進クラスの半分を占め、大学学部進学を目指す学生が多いという。学生全体の特徴として皆明るく、ポジティブ思考を有しているため、楽観性ゆえに準備・計画を甘く見積もる傾向にあるというのが問題点として挙げられるようだ。



エール学園の進学説明会の様子



エール学園での説明の様子

(2) 関西語言学院進路相談会 (in 京都)

日時：2025年7月18日(金) 10:00~16:00

場所：関西語言学院

対象生徒数：約750名

2025年7月18日(金)に関西語言学院にて、大学44校、専門学校24校が参加し、関西語言学院のほか、同系列の学校である育英館大学別科・北洋大学別科の留学生を対象に進学説明会が行われた。

各大学のブースにて留学に関する個別相談が行われ、高知大学のブースには29名の学生が訪れ、積極的に質問をし説明に聞き入っていた。留学生の内訳は、全て学部志望者で、理工学部（特に情報科学科）への進学希望者が多かった。相談者の中には是非オープンキャンパスに訪れたいという学生もおり、本学への受験を真剣に考えている質の高い学生がいる傾向があった。詳細は以下の通りである。

高知大学のブースに来た留学生数：29名

（うち中国：13名、ミャンマー：12名、バングラデシュ：4名）

<希望学部>

人文学部：7名

理工学部：19名

医学部：3名

国立大学は私立大学と比較し学費が安いいため、特に理系の学生の志望者が多かった。また、地方大学は寮やアパートも相対的に安価で、生活もしやすく勉学に集中しやすい環境が整っていることに魅力を感じ、是非志望校として考えたいという学生が多かった。医学部を志望している学生は、留学生で医学部に入学した学生がいるか気にしていた。

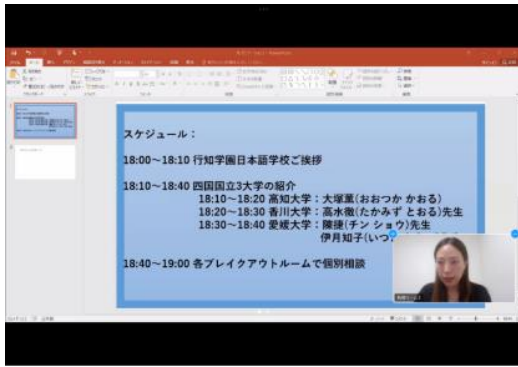
(3) 四国国立3大学合同進学説明会 in 行知学園日本語学校(オンライン)

日時：2025年10月16日(木)18:00 - 19:00

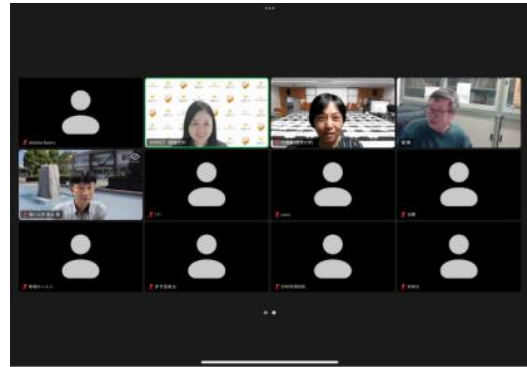
場所：Zoom

概要：2025年10月16日(木)にZoomで四国国立3大学（香川・愛媛・高知）と行知学園日本語学校を繋ぎ、合同進学説明会が行われ、行知学園日本語学校ならびに系列校の学生8名が参加した。行知学園の李先生によるご挨拶及び進行に関する説明の後、高知大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学の順で大学紹介並びに入試に関する説明が10分間ずつ行われた。その後、大学ごとにブレイクアウトルームに分かれて、個別相談を実施した。

本学のブレイクアウトルームには2名の学生が訪れ、医学部の入試や面接についての質問や日本留学試験の点数についての質問があった。本学に興味を持ち、一人でも多くの留学生が受験してくれることを期待している。



行知学園日本語学校進学説明会の様子



3大学の説明者の様子

(4) 四国国立3大学合同進学説明会 in 千駄ヶ谷日本語学校(オンライン)

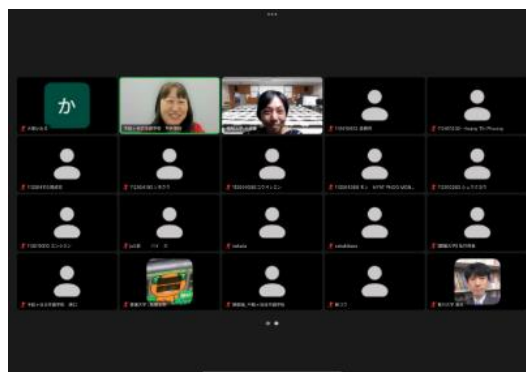
日時：2025年10月24日(金)12:20 - 13:20

場所：Zoom

概要：2025年10月24日(金)にZoomで四国国立3大学(香川・愛媛・高知)と千駄ヶ谷日本語学校を繋ぎ、合同進学説明会が行われ、千駄ヶ谷日本語学校ならびに系列校の日本語教育研究所の学生15名が参加した。まず、千駄ヶ谷日本語学校の日本語教育部専任講師の平井里枝先生のご挨拶の後、高知大学、香川大学、愛媛大学の順で大学紹介並びに入試に関する説明が10分間ずつ行われた。その後、大学ごとにブレイクアウトルームに分かれて、個別相談を実施した。

高知大学の10分間の説明の際、2023年4月に理工学部に入學した中国人の留学生で千駄ヶ谷日本語学校を卒業した学生が、進学経験談として高知大学における勉強の環境や入試の科目、大学卒業後の就職先について説明してくれた。千駄ヶ谷日本語学校の学生は、先輩の生の声を聞き、本学に興味を持ったとのことであった。

また、ブレイクアウトルームに3名の学生が訪れ、理工学部の入試科目の配点や日本語の面接、日本留学試験の日本語の点数についての質問があった。



千駄ヶ谷日本語学校進学説明会の様子

4. 授業関連

4.1 グローバル教育支援センター開講日本語総合コース

2025 年度日本語総合コース授業科目 第Ⅰ学期シラバス

<朝倉キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学に在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4 月第 3 週から始まり、科目名は日本語既習者で初級レベル対象の「基礎日本語Ⅱ」、「基礎日本語Ⅲ」、中級レベル対象の「初中級文型」、「初中級会話Ⅰ」、「中級聴解Ⅰ」、「中級会話Ⅰ」、「中級作文Ⅰ」、「中級漢字・語彙Ⅰ」、中上級レベル対象の「コミュニケーション日本語Ⅰ」である。

II. 授業レベルについて

初級レベルは、引き続き初級前半の 4 技能の実力向上を図る。到達目標は「基礎日本語Ⅱ」は日本語能力試験 N5 レベル、「基礎日本語Ⅲ」は N4 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、中級前半から中級後半レベルへの 4 技能の実力向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの 4 技能の実力向上を図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語Ⅱ	大塚薫(火)・片山順子(金)	火曜日 2 限・金曜日 4 限
授業内容：	初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第 11 課～第 20 課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語Ⅲ	大塚 薫	火曜日 3 限
授業内容：	初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。	

初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。

使用教材：『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』第21課～第25課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』第26課～第33課 スリーエーネットワーク
『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク
評価方法： 期末試験、課題・受講態度、出席

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級文型	吉田 鈴香	月曜日 2限

授業目標： 初級レベルの文型が適切に使えるようになる。新しい文型を身につけ、中級レベルの日本語学習に進む準備をする。初級文法を復習し、新しい文法を学習していく。短文作成に重点を置く。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 出席・受講態度、課題、期末試験

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級会話Ⅰ	大塚 薫	木曜日 2限

授業目標： 身近な話題を通してきちんと伝える技術と表現を身につける。また、それぞれのテーマで話題となっている内容について自国の文化と比較し、ペアやグループで話し合い発表の能力を高めることを目標とする。

テキスト： 『マンガで学ぶ日本語表現と日本文化』アルク

評価方法： 最終発表、課題提出、出席・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級漢字・語彙Ⅰ	吉田 鈴香	月曜日 1限

授業目標： 日常生活でよく見る表示や文書などを使って、漢字（約300字）と漢字で書く言葉を学習する。学習した漢字を使って文を作る練習をする。

テキスト： 『留学生のための漢字の教科書 中級700 [改訂版]』国書刊行会

評価方法： 出席・受講態度、課題、小テスト

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
中級聴解Ⅰ	片山 順子	火曜日 1限

授業目標： 日常生活や大学の授業で使われる日本語を聞き取り、内容を理解し要約する力を身につける。日本の文化、産業、料理、スポーツ、伝統芸能などのテーマを扱う。日常会話やプレゼンテーションの音声を聞いて、内容について

ての設問を解いたり自分の言葉で説明したりする。グループでの話し合いや発表をすることもある。また、聞き取りのポイントなどのフィードバックを行う。

テキスト：『毎日の聞きとり plus40』上巻・下巻 凡人社

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [中上級]』スリーエーネットワーク

評価方法： 期末試験、出席、課題・受講態度

授業科目

担当講師名

曜日・時限

中級読解 I

石川 啓子

水曜日 2 限

授業目標： 辞書などを利用して中級レベルの文章を読み、内容を正確に理解する。さらに内容について考えを深め、自分自身の意見が述べられるようになる。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 期末試験、出席・受講態度、課題

授業科目

担当講師名

曜日・時限

中級会話 I

石川 啓子

水曜日 3 限

授業目標： 中級レベルの語彙・表現を使って、自分の言いたいことを、わかりやすく適切に相手に伝えることのできるようになる。日常生活で出会う場面についてロールプレイしたり、興味関心のある話題について発表したり、グループで話し合ったりする。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 期末試験、出席・宿題・受講態度

授業科目

担当講師名

曜日・時限

中級作文 I

片山 順子

金曜日 3 限

授業目標： 日常の文章や大学のレポートなどを目的に応じた表現を使って自然な日本語で書くことを目指す。初級や初中級で勉強した文法や表現を使って正しい文を作る練習から始め、場面に適した言葉を使ってまとまった内容の文章を書く練習をする。毎回、学習した文法や表現を使って作文を書く。

テキスト：『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク

『学ぼう！にほんご 作文練習帳 中級』専門教育出版

評価方法： 期末試験、出席、課題・受講態度

授業科目**担当講師名****曜日・時限**

コミュニケーション日本語Ⅰ 大塚 薫

木曜日 3限

授業目標： 大学の講義・演習をこなすための日本語能力を習得するとともに、学生生活を送る上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、考える力を養い、「スピーチ」、「討論」などの発信型スキルを伸ばすことを目標とする。また、就職活動に必要な日本語力を身につけるために、自己分析・企業研究・面接に必要な日本的マナーや話し言葉の日本語を習得する。

テキスト：『就職のための日本語』多楽園

『伸ばす！ 就活能力・ビジネス日本語力』国書刊行会

評価方法： 最終発表、課題提出、出席・受講態度

<物部キャンパス>**I. 授業の概要**

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。4月第3週から始まり、日本語未修者で入門レベル対象の「初級Ⅰ」、日本語入門を習得している学習者を対象とする「初級Ⅱ」、日本語既習者で日本語初級前半を習得した学生を対象とした「初級Ⅳ」を設ける。「初級Ⅰ」は週2コマ、「初級Ⅱ」と「初級Ⅳ」は週1コマである。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級Ⅱ」は日本語入門を習得した学生を、「初級Ⅳ」は日本語初級前半を習得した学生を対象とする。そして、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は「初級Ⅱ」は日本語能力試験 N5 レベル、「初級Ⅳ」は日本語能力試験 N4 レベルとする。

III. クラス内容**授業科目****担当講師名****曜日・時限**

初級Ⅰ

土橋 愛

火曜日 2限・木曜日 1限

授業内容： ①ひらがな、カタカナの読み、書き
②動詞のフォームを使った基本的な文型
③生活必須語彙・表現

使用教材：『まるごと 日本のことばと文化 入門 A | かつどう』第1課～第15課 国際交流基金

評価方法： 期末試験、出席、宿題・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅱ	石川 啓子	木曜日 3限
授業内容： 初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要な最低限の会話力の養成を目指す。		
使用教材： 『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 かつどう』 第 15 課～第 18 課 国際交流基金 『まるごと 日本のことばと文化 初級 I A2 かつどう』 第 1 課～第 3 課 国際交流基金		
評価方法： 期末試験、宿題・受講態度・小テスト		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅳ	石川 啓子	木曜日 2限
授業内容： 初級前半の学習を終了した学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要な最低限の会話力の養成を目指す。		
使用教材： 『まるごと 日本のことばと文化 初級 I A2 かつどう』 第 7 課～第 13 課 国際交流基金		
評価方法： 期末試験、宿題・受講態度・小テスト		

<岡豊キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初級Ⅳ」、「日本語初中級Ⅱ」を週 1 コマずつ設け、2025 年 4 月第 3 週から 7 月まで 15 週間開講する。

II. 授業レベルについて

「日本語初級Ⅳ」は、日本語初級前半を習得した学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。原則として留学生がいつ参加しても授業に主体性をもってかかわれる内容とする。到達目標は「日本語初級Ⅳ」は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「日本語初中級Ⅱ」は初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの 4 技能の実力向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルとする。

Ⅲ. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
日本語初級Ⅳ	甲藤 瞳	木曜日 4 限
授業内容： 初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級前半の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要な最低限の会話力の養成を目指す。		
使用教材： 『きょうから話せる！にほんごだいじょうぶ Book2』 第 13 課～第 17 課 The Japan Times		
評価方法： 期末試験、出席、受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
日本語初中級Ⅱ	甲藤 瞳	木曜日 5 限
授業内容： 初級修了レベルの学生を対象とし、中級前半から中級後半レベルへの 4 技能の実力向上を図る。		
使用教材： 『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（第 2 版）第 1 課～第 5 課 スリー エーネットワーク		
評価方法： 期末試験、出席、受講態度		

2025 年度日本語総合コース授業科目 第 2 学期シラバス

<朝倉キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学朝倉キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10 月第 1 週から始まり、科目名は入門レベルの「基礎日本語Ⅰ」、初級レベルの「基礎日本語Ⅲ」、「基礎日本語Ⅳ」、初中級レベルの「初中級文法」、「初中級会話Ⅱ」、中級レベルの「中級漢字・語彙Ⅱ」、「中級聴解・会話」、「中級読解Ⅱ」、「中級作文Ⅱ」、中上級レベルの「コミュニケーション日本語Ⅱ」を設ける。

Ⅱ. 授業レベルについて

入門レベルは初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

初級レベルは日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

中級レベルは、初級修了レベルの学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの 4 技能の実力アップを図る。到達目標は日本語能力試験 N2 レベルとする。

中上級レベルは、日本語能力試験 N2 レベルの学生を対象とし、上級レベルへの 4 技能の実力アップを図り、到達目標は日本語能力試験 N1 レベルとする。

Ⅲ. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
基礎日本語 I	石川啓子(火)・吉田鈴香(金)	火曜日・金曜日 2 限
授業内容：	①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現	
使用教材：	『みんなの日本語初級 I 本冊』第 1 課～第 13 課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク 『かな入門』	
評価方法：	中間・期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語Ⅲ	片山 順子	水曜日 2 限
授業内容：	初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級 I 本冊』第 20 課～第 25 課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	
評価方法：	期末試験、課題・受講態度、出席	

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
基礎日本語Ⅳ	大塚 薫	金曜日 3 限
授業内容：	初級後半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。	
使用教材：	『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』第 33 課～第 45 課 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説』スリーエーネットワーク	

評価方法： 期末試験、課題・受講態度、出席

授業科目

担当講師名

曜日・時限

初中級文法

吉田 鈴香

月曜日 2 限

授業内容： 初級レベルの文型を適切に使えるようになる。新しい文型を身につけ、中級レベルの日本語学習に進む準備をする。初級文法を復習し、新しい文法を学習していく。短文作成に重点を置く。

使用教材： ハンドアウト

評価方法： 期末試験、出席を含む受講態度、課題

授業科目

担当講師名

曜日・時限

初中級会話Ⅱ

石川 啓子

火曜日 3 限

授業内容： N4～N3 レベルの語彙・表現を使って、自分の言いたいことをわかりやすく適切に相手に伝えることができるようになる。日常生活で出会う場面で必要な語彙・表現を学び、ロールプレイをする。また、身近な話題について発表したり、グループで話し合ったりする。

使用教材： ハンドアウト

評価方法： 期末試験、出席を含む受講態度、課題

授業科目

担当講師名

曜日・時限

中級漢字・語彙Ⅱ

吉田 鈴香

月曜日 1 限

授業内容： 日常生活でよく見る表示や文書などを使って、漢字と漢字で語彙を身につける。学習した漢字を使って文を作る練習をする。小テストをしたり作文の宿題を出したりすることもある。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 小テスト、課題、出席を含む受講態度

授業科目

担当講師名

曜日・時限

中級聴解・会話

片山 順子

火曜日 1 限

授業内容： 様々なテーマを聞き取り、それについて自分の考えを述べたり意見交換をする。また、社会生活の様々な場面で相手の気持ちに配慮しながら適切な言い方を選んで話すことができるようになる。

テキスト： 『タスクベースで学ぶ日本語 中級Ⅰ』スリーエーネットワーク

『みがけ！コミュニケーションスキル 中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』スリーエーネットワーク

評価方法： 期末試験、出席、課題・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
-------------	--------------	--------------

中級読解Ⅱ	石川 啓子	木曜日 2 限
-------	-------	---------

授業内容： 中級～上級の語彙・表現を身につけ、大学での学びに必要な読解力を養う。エッセイ、対話文、新聞記事、解説文など様々なタイプの文章を読み、タスクを通して、語彙・表現を身につけ、文章の理解力を高めていく。

テキスト： ハンドアウト

評価方法： 期末試験、出席を含む受講態度、課題

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
-------------	--------------	--------------

中級作文Ⅱ	片山 順子	金曜日 3 限
-------	-------	---------

授業内容： 初級で勉強した文法や表現を使って正しい文を作る練習から始め、レポートやメールなど目的に応じた文章が書けるようになる。

テキスト： 『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』アルク

『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク

評価方法： 期末試験、出席、課題・受講態度

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
-------------	--------------	--------------

コミュニケーション日本語Ⅱ	石川 啓子	木曜日 3 限
---------------	-------	---------

授業内容： 大学生活で必要とされる口頭表現能力を身につける。「自分をアピールする」「インタビューをする」「1分間スピーチをする」「資料を提示して意見を述べる」「調べたことを伝え、話し合う」「対立する意見をたたかわせながらディスカッションする」等を学習する。

テキスト： 『もっと中級日本語で挑戦！スピーチ&ディスカッション』凡人社

『J-PEAK』The Japan Times

評価方法： 期末試験、出席を含む受講態度、課題

<物部キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学物部キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。10月第1週から始まり、日本語未習者を対象とする「初級Ⅰ」、日本語初級前半を習得している学習者を対象とする「初級Ⅲ」、日本語初級後半を習得した学習者を対象とする「初中級Ⅰ」、2025年に来日した学生を対象とする「日本事情」を設ける。「初級Ⅰ」は週2コマ、「初級Ⅲ」「初中級Ⅰ」「日本事情」は週1コマである。

II. 授業レベルについて

「初級Ⅰ」は初めて日本語を学習する学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N5 レベルとする。

「初級Ⅲ」は日本語初級前半を習得している学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験 N4 レベルとする。

「初中級Ⅰ」は日本語初級前半を習得した学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の向上を図る。到達目標は日本語能力試験 N3 レベルとする。

「日本事情」は、日本の生活に慣れていない学生を対象とし、高知県での生活環境に慣れ、今後生活していく上での様々な情報を習得し、地域の人々とも円満な関係を築けるようになることを目指す。

III. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅰ	土橋 愛	火曜日 2 限・木曜日 1 限
授業内容：①ひらがな、カタカナの読み、書き ②動詞のフォームを使った基本的な文型 ③生活必須語彙・表現		
使用教材：『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 かつどう』第 1 課～第 15 課 国際交流基金		
評価方法： 中間・期末試験、出席、宿題・受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初級Ⅲ	今井 多衣子	木曜日 2 限
授業内容： 初級前半を学習している学習者に対し、引き続き初級の日本語学習を行う。初級中級から後期にかけての基本的な文法、文型、語彙を習得し、日常的な場面での会話できるようにする。		
使用教材：『まるごと 日本のことばと文化 初級 I A2 かつどう』第 3 課～第 8 課 国際交流基金		
評価方法： 期末試験、宿題・受講態度、小テスト		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
初中級Ⅰ	今井 多衣子	木曜日 3 限
授業内容： 初中級前半の文型、語彙を学習し、話す力を中心に四技能の力をつけ、中級にスムーズ		

ズに移行できるようにする。

使用教材：『まるごと 日本のことばと文化 初級ⅠA2かつどう』第13課～第18課 国際交流基金

評価方法： 期末試験、宿題・受講態度、小テスト

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時限</u>
日本事情	今井 多衣子	月曜日 3限

授業内容： 高知県及び高知市、南国市での生活環境に慣れ、印象深い日本文化体験をする。

1. オリエンテーション、自己紹介、日本・高知県の紹介、歓迎会の挨拶の準備
2. My-Yu バスに乗り高知市内の見どころ巡り
3. 高知県や日本についての学習
4. 北川村(モネの庭)へのバス旅行
5. 南国市の生活ガイドの説明及び災害に関する情報学習
6. 日本の食べ物についての学習
7. 日本の正月体験(書き初め、正月遊び)
8. 日本事情の感想と各国事情との比較

使用教材： 独自教材(ハンドアウト)

評価方法： 課題、受講態度、出席

<岡豊キャンパス>

I. 授業の概要

高知大学岡豊キャンパスに在籍する全留学生を対象とした日本語コースである。「日本語初中級Ⅰ」、「日本語初中級Ⅲ」を週1コマずつ設け、2025年10月第1週から2026年1月まで15週間開講する。

II. 授業レベルについて

「日本語初中級Ⅰ」は、初級前半を学習した学生を対象とし、日本語学習にあたって必要な基本的知識の習得と、日常生活に最低限必要なコミュニケーション能力の習得を目指す。到達目標は日本語能力試験N4レベルとする。

「日本語初中級Ⅲ」は、初級後半を習得した学生を対象とし、初級後半から中級前半レベルへの4技能の向上を図る。到達目標は日本語能力試験N3レベルとする。

Ⅲ. クラス内容

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初中級Ⅰ	甲藤 瞳	木曜日3限
授業内容： 初級前半の学習半ばの学習者に対し、継続して初級の日本語学習を行う。 初級の基本的な文型、文法項目の学習により、日常生活に必要最低限の会話力の養成を目指す。		
使用教材： 『きょうから話せる！にほんごだいじょうぶ Book2』 第15課～第18課 The Japan Times		
評価方法： 期末試験、出席、受講態度		

<u>授業科目</u>	<u>担当講師名</u>	<u>曜日・時間</u>
日本語初中級Ⅲ	甲藤 瞳	木曜日4限
授業内容： 中級の文型、語彙を学習し、読む力、書く力をつけ、日本語能力試験N3レベルを目指す。		
使用教材： 『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（第2版）第3課～第6課 スリー エーネットワーク		
評価方法： 期末試験、出席、受講態度		

4.2 共通教育開講科目

(1) 英語開講科目（第1学期・第2学期）

2025年度は、指導言語を英語とする科目が第1学期・2学期合わせて11科目開講され、合計225名の学生が受講した。各科目の概要は以下のとおりである。

①海外留学・旅行のための実践英語（第1学期・第2学期）

履修者数：第1学期32名／第2学期46名

科目概要：21世紀の旅行者に必要な「言語ツールキット」を身につけることを目的として、学生が単に英語を「知っている」だけでなく、英語を「使える」ようになることを目指す。授業では、海外での移動、社交、礼儀作法など様々な状況に応じて必要な言語的な「サバイバルスキル」を練習できる環境を提供する。文法の反復練習にとどまらず、特定の状況において効果的かつ適切に言語を使用する力、語用論的能力の育成に重点を置いている。授業は、ペアワーク、ロールプレイ、ピア・フィードバックなどの活動を取り入れた実践的なアプローチで実施される。2026年度は物部キャンパスでも本科目を開講する予定である。

②English as a Global Language (第1学期)

履修者数：15名

科目概要：本科目では、従来の「外国語としての英語」という枠組みを超え、英語をネイティブスピーカーだけのものではなく、それを使用する人々が共有する動的かつグローバルなツールとして再定義する。受講者は、学部生および交換留学生であり、日本人学生は「ネイティブのような完璧な流暢さ」を目指すのではなく、「自然に理解されること」へと目標を転換する。また、交換留学生は自身の英語の地域的バリエーションへの理解を深め、言語の多様性について他の受講者に貴重な視点を提供する。理論的基礎から地域別のケーススタディ、社会言語学的考察まで、幅広いテーマを扱う。

③The Origins and Evolution of English (第1学期)

履修者数：10名

科目概要：本科目では、ゲルマン語派の諸方言にさかのぼる英語の起源から、今日の世界共通語としての地位に至るまでの歴史の変遷を探究する。受講生が本科目を通して、「英語を学ぶ」ことから「英語を通じて学ぶ」ことへと移行し、第二言語で学術的内容を扱う自信を育むことができるように設計されている。また、受講生は、自身の母語の歴史と比較しながら英語の歴史の変遷を学ぶことができる。学習内容は、古英語から現代英語まで年代順にたどる構成となっており、現在使用されている英語の形成に大きな影響を与えた主要な出来事に焦点を当てる。

④異文化間の能力を開発する (第1学期)

履修者数：20名

科目概要：本科目は、単なる言語習得にとどまらず、グローバル・シチズンシップに必要な心理学的・社会的視点に焦点を当て、実践的かつ能動的な学習方法を取り入れている。学生は、文化について、単に知識として学ぶのではなく、シミュレーションやグループワークなどを通じて体験的に学ぶ。本科目を通じて、学生は自身の文化的バイアスを認識し、異文化間の摩擦やその解決についてシミュレーションを行う。こうした実践的なカリキュラムを通して、学生はより高度な異文化リテラシーを身につけることができる。

⑤SDGs and Global Citizenship (第2学期)

履修者数：14名

科目概要：本科目は、グローバル・コンピテンシーを育成することを目的として、2025年度に導入された。持続可能な開発目標 (SDGs) を単なるチェックリストとしてではなく、相互に関連する枠組みとして捉え、学生が主体的に向き合うことを目指している。本科目では、グループワークなどの実践的な学びを通じて、「ローカルな自己」から「グローバルな

システム」へと視野を広げ、複雑で現実的な危機に対処するための批判的思考力を備えたグローバル・シチズンとしての自己のあり方を再考するよう促す。

⑥IELTS/TOEFL 対策コース（第 1 学期・第 2 学期）

履修者数：第 1 学期 17 名／第 2 学期 10 名

科目概要：本科目は、海外の大学への留学や進学を目指す学生を対象に、IELTS や TOEFL などの英語試験に対応するための実践的なスキルの養成と語彙力の強化を行う。また、授業は英語で行われるため、学生は長文読解やリスニングなどの課題に取り組む上で必要となる「言語的スタミナ」を養うことができる。本科目では 4 技能すべてを扱い、リーディングとリスニングでは意図を読み取る力を養成し、ライティングでは特にタスク 1 に重点を置いた指導を行う。さらに、スピーキングでは各学生に合わせた学習プランを提供する。

⑦英検対策コース（第 1 学期）

履修者数：38 名

科目概要：本科目は、英検対策学習を、受動的な暗記中心の学習から、実践的な英語スキルを能動的に習得する学びへと転換させることを目的として設計されている。履修学生は、英検 2 級から準 1 級レベルに到達するための、明確かつ体系的な学習方法を学ぶ。学生は、単に英語を「知っている」段階にとどまらず、読解、聴解、会話、作文の各領域において、英語を迅速かつ正確に運用できるようになることを目指す。

⑧プロフェッショナルコミュニケーションのための英語（第 2 学期）

履修者数：15 名

科目概要：本科目は、一般的な英語力と、グローバルな職場で求められる具体的な言語運用能力とのギャップを埋めることを目的として、実践的かつ能動的な学習を提供している。説得力のあるメールの作成から構成の整ったプレゼンテーションの実施に至るまで、学生は「英語を学ぶ」段階から「英語で業務を遂行する」段階へと移行する。それにより、学生は言語能力だけでなく、グローバル化したビジネス環境に適応するためのプロフェッショナルとしての自信も身につけることができる。

⑨International Media and Journalism（第 2 学期）

履修者数：8 名

科目概要：本科目は、メディア技術の進化について学ぶことを通じて、学生がグローバルなメディアをめぐる議論に対する批判的思考力を養うとともに、現代のニュース制作に必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的としている。履修学生は、情報を受動的に受け取る立場から、グローバルな議論に主体的に参加する存在へと成長する。また、英語

でのニュース執筆の技能を習得し、デジタル時代を理解し、その中で主体的に行動するために必要な鋭い洞察力も身につける。

(2) 地域文化理解

「地域文化理解」の授業は、第2学期に共通教育社会分野科目において開講された。本授業は事前・事後学習並びに体験学習を通して地域の現状や課題・地域の取り組みを理解し、多文化共生社会において、どのように地域振興を推進していくべきか、学生の目線から課題を見付け、その解決策を考え、地域の活性化を目指す地方創生への寄与を目的としている。また、このような一連の活動から得た学びを地域に還元する仕組みの構築を目指している。

2025年度は、受講生24名（留学生15名・日本人学生9名）による国際共修授業が行われた。また、体験学習も体験先の協力を得てカリキュラム通り3回実施した。授業の前半は地域の現状及び課題を認識するため、講義で学ぶとともに、中高生や中山間地域住民との交流を中心とした体験学習が行われた。授業の後半では多文化共生社会における地域振興を中心に学びを深め、外国人社員を積極的に採用している県内企業を見学するとともに交流活動を通じた体験活動が行われた。

受講生の終了アンケート評価の結果、一連の授業の活動の満足度は5段階評価中4.8で高評価を博した。本授業を通して受講生個人が地域の現状や課題を認識し、自分事として地域との互恵関係の構築や多文化共生社会における地域振興・地方創生についての解決策を提案するに至ったと言える。



高知県立安芸中高等学校生徒との集合写真



大豊町にて餅つき体験

(3) サマープログラム (Japanese Studies I / II) (第1学期)

高知大学サマープログラムは毎年7月に開催され、協定校から短期留学生(4週間)を受け入れている。本プログラムは、共通教育科目「Japanese Studies I/II」として本学学生にも開講されており、英語を主な使用言語として、留学生と本学学生がともに学ぶプログラムとなっている。

2025年度は、6月30日～7月25日の日程で実施され、米国・カリフォルニア州立大学フレズノ校から4名、チェコ・南ボヘミア大学から1名、メキシコ・プエブラ荣誉州立自治大学から1名の計6名の留学生が参加し、本学からは10名が参加した。

本プログラムでは、日本語の授業、日本文化のワークショップ(剣道、生花、尺八、よさこいなど)、高知県内でのフィールドワーク(大月町、本山町、赤岡町、高知市)といった多彩な内容を提供した。日本語の授業には、日本人学生が補助として参加し、会話練習などを行った。また、留学生は、サマープログラム参加学生以外とも活発に交流を行っていた。

実施後アンケートでは、参加者の満足度が非常に高く、プログラムの総合評価においては全員が最高評価をつけた。本プログラムは、高知大学が海外の協定校との連携を継続・発展させるうえで重要な役割を果たすとともに、本学キャンパスの国際化にも寄与している。



大月町でのフィールドワーク



本山町でのフィールドワーク



書道ワークショップ



剣道ワークショップ

(4) 短期留学プログラム (第1学期・第2学期)

短期留学プログラムは、全学部の学部生を対象に開講している集中講義で、夏休みまたは春休みに実施する海外語学研修と、事前・事後学習からなるプログラムである。語学研修先は、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、フィリピン、イギリスの語学学校や大学附属語学センターである。学生によって研修期間は異なり、2～6週間となっている。

2025年度の履修者数は、第1学期12名、第2学期17名であった。本プログラム参加者は、全9回の事前学習を通じて、渡航準備や、海外での生活で必要となる実践的英語力を身につける。その後、長期休暇中にそれぞれの留学先で語学研修を行い、帰国後に事後学習としてレポートなどの課題を提出する。また、本プログラムでは、渡航前および帰国後にそれぞれアセスメントを実施しており、その結果から、異文化理解の深化、他者への共感が向上していることが認められ、さらに最も顕著なのが履修学生たちの自信の向上である。ほぼすべての学生が高い自己効力感を持って帰国しており、短期の語学研修であっても、長年にわたり抱えてきた個人的な壁を乗り越える契機となることを示している。

(5) 短期海外ボランティアプログラム（第1学期・第2学期）

本プログラムは、2025年度から導入された科目で、全学部の学生を対象に、集中講義として開講されている。国際的な実践に主体的に関わる機会を学生に提供しており、従来の語学中心の留学とは異なり、本プログラムでは海外のボランティア活動を主な学習の手段としている。

2025年度の履修者数は、第1学期3名、第2学期20名で、農業、海洋科学、医療、教育など様々な分野を学ぶ幅広い学生が参加した。学生たちは、長期休暇中に各自が選択した2～4週間の海外プログラムに参加した。主な参加先は、インドネシア・バリ島（ウミガメ保護、児童教育プログラム）、フィリピン（保育、医療支援プログラム）、ネパール（児童教育プログラム）であった。本プログラムは、海外でのボランティアを通じて、異文化適応力、課題解決力、語学力を身につけることを目標としている。帰国後のレポートによると、多くの学生が、本プログラムへの参加を通じて異文化理解が深まり、新たな課題に対処する能力が向上したと報告している。

5. その他

(1) 外国人留学生在籍状況

(令和7.5.1現在) (as of May 1, 2025)

国名・地名/所属	国費										私費										合計		総計
	学部		修士		博士		研究生等		計	学部		修士		博士		研究生等		計	男	女			
	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女						
アジア	インドネシア					2	1	1		4					2		2	3	4	11	8	7	15
	タイ							1		1										0	0	1	1
	パキスタン				2					2										0	0	2	2
	バングラデシュ					1				1										0	1	0	1
	フィリピン				1	2	5			8						1				1	2	7	9
	マレーシア									0	3	4	1							8	4	4	8
	ミャンマー							1		1										0	0	1	1
	ネパール									0					1	2				3	2	1	3
	ロシア									0						1				1	1	0	1
	韓国		1							1	3		1		1			2		7	7	1	8
	中国									0	8	2	10	6	1		11	14		52	30	22	52
台湾									0				1			2	3		6	2	4	6	
中東	イラン								0				1						1	0	1	1	
南米	ブラジル								0			1							1	1	0	1	
アフリカ	ガーナ								0				1	1					2	1	1	2	
	ナミビア								0			1							1	1	0	1	
	マリ								0					1					1	1	0	1	
	モザンビーク								0			1							1	1	0	1	
総計		0	1	0	3	5	8	1	0	18	14	6	17	10	7	3	18	21		96	62	52	114
学部	人文社会科学部								0	4	4					11	7		26	15	11	26	
	教育学部							1		1						3	8		11	4	8	12	
	理工学部								0	7	1								8	7	1	8	
	医学部		1						1										0	0	1	1	
	農林海洋科学部								0	3	1								4	3	1	4	
	地域協働学部								0										0	0	0	0	
	土佐さきがけプログラム								0										0	0	0	0	
大学院総合人間科学研究科	人文社会科学専攻								0			7	7			2	3		19	9	10	19	
	教育学専攻								0										0	0	0	0	
	理工学専攻				1				1			5	2						7	5	3	8	
	医科学専攻								0			1	1						2	1	1	2	
	看護学専攻								0										0	0	0	0	
	農林海洋科学専攻				2				2			4				2	3		9	6	5	11	
	地域協働学部専攻								0										0	0	0	0	
	応用自然科学専攻								0					1					1	1	0	1	
	医学専攻					1			1					2	1				3	3	1	4	
黒潮圏総合科学専攻					2	5		7						1				1	2	6	8		
愛媛大学大学院連合農学研究科					2	3		5					4	1				5	6	4	10		
総計		0	1	0	3	5	8	1	0	18	14	6	17	10	7	3	18	21		96	62	52	114

(2) 自律学習支援センター（OASIS）との連携

グローバル教育支援センターでは、留学を支える学生の語学力向上と国際的な学修環境の充実を目的として、自律学習支援センター（OASIS）との連携を継続的に推進している。OASIS は、語学資格試験対策講座や e ラーニングを活用した学習支援に加え、国内外の学生との交流を促進する各種プログラムを展開しており、学生の主体的な学びを支える拠点として重要な役割を担っている。また、OASIS は留学生と日本人学生が日常的に集う場としても定着しており、パートナーシップ・プログラムや自主学習、交流活動の拠点として幅広く活用されている。特に共有スペースでは、学部や国籍を超えた学生同士の自然な交流が生まれており、言語学習にとどまらない相互理解や学び合いの機会が創出されている。こうした日常的な交流は、キャンパスの国際化を下支えする重要な要素となっている。

本センターは、OASIS と連携し、英語力向上を目的とした講座やセミナー（資料 1～7 参照）に加え、グローバルキャリアに関する企画を継続的に実施してきた。これらの取り組みは、第 4 期中期目標・中期計画に掲げられている学生の語学力強化および海外派遣の促進と密接に関連するものであり、留学準備段階における基盤形成として重要な役割を果たしている。実際に、本センターが実施した留学関連アンケートや語学力測定の結果からも、留学への意欲喚起と語学力向上との関連性が示唆されている。

2026 年度においても、OASIS との連携のもと、語学力向上を目的とした支援や、国際的な視点を育むセミナーの開催を通じて、学生が安心して留学に挑戦できる学修環境の整備に取り組んでいく予定である。今後も両センターの強みを生かしながら、留学促進とキャンパスの国際化を一体的に推進していきたいと考えている。

資料 1：英語検定試験対策講座の案内（1 学期）

主催：
自律学習支援センター（OASIS）
グローバル教育支援センター

留学・英語検定試験への支援プロジェクト

<IELTS スピーキング対策講座>

▶ 対象：協定校留学を希望している学生
▶ 日時：(2講座1セット×4回) [全て水曜日 3限目]
①4月30日・5月7日
②5月14日・21日
③5月28日・6月4日
④6月11日・18日

①～④から選択してください。
①②、③④、①④、①②③など、あるいは、すべての受講も可能です。
ただし欠席しないようにしてください。

▶ 場所：OASIS マルチメディア教室
▶ 定員：8名
▶ 担当：Andy Harvey 先生



講座への申込締切は
4月21日(月)15:00まで

申込はこちらから↓



問合せ：今井典子
(noimas@kochi-u.ac.jp)

<TOEIC 対策講座>

▶ ①②とも火曜日3限目 各3回実施
①TOEIC 500～600点 目標：5月13日、20日、27日
②TOEIC 700点 目標：6月10日、17日、24日

▶ ①だけでも、②だけでも、①②両方でも 受講可能です。それぞれ申し込みをしてください。
▶ 場所：OASIS マルチメディア教室
▶ 定員：20名
▶ 担当：橋本 由紀子先生



文法やリスニング、長文の書き方など、ぜひ書き手をなくして、100点UPを目指しましょう。

<英検自主学習会>

▶ 場所：OASIS マルチメディア教室

英語好きの学生が各週集まり、英検準1級以上の合格を目指す学習会です。英字新聞の読解や意見交換など、楽しみながら学習を進めていきます。誰でも参加可能!
♪OASISスタッフの英語サポートもあります。
⇒ 随時OASISにて受付

協定校留学を希望する方→グローバル教育支援センターが提供する「個別留学相談」を活用してください。



資料 2: 英語検定試験対策講座の案内(2 学期)

主催: 自律学習支援センター (OASIS) グローバル教育支援センター

留学・英語検定試験への支援プロジェクト

<IELTSスピーキング対策講座>

>対象: 協定校留学を希望している学生
>日時: 2講座1セット×4回 **【全て水曜日 3限目】**

①10月8日・10月15日 ①~④から選択してください。
②10月22日・11月5日 ①②、③④、①④、①②③など
③11月12日・11月19日 あるいは、すべての受講も
④11月26日・12月3日 可能です。

>定員: 6名
>担当: Andy Harvey先生



<IELTSリスニング&リーディング (L&R) 対策講座>

>対象: 協定校留学を希望している学生
>日時: **【全て月曜日 15:00-16:00】**

①10月20日 (リスニング)
②10月27日 (リーディング)
③11月10日 (リスニング)
④11月17日 (リーディング)

①~④から選択してください。①②、③④、①④、①②③など、あるいは、すべての受講も可能です。

>定員: 10名
>担当: 柳瀬 真紀先生



<TOEIC対策講座> (対面とオンラインは同じ内容)

対面での実施

>①②とも**水曜日3限目** 各3回実施
① TOEIC 500-600点 目標:
10月14日、21日、28日
② TOEIC 700点 目標:
11月11日、18日、12月2日

>①だけでも、②だけでも、①②両方でも
受講可能です。それぞれ申し込みをしてください。
>定員: 15名
>担当: 橋本 由紀子先生

オンラインでの実施

>①②とも**金曜日3限目** 各3回実施
① TOEIC 500-600点 目標:
10月17日、24日、31日
② TOEIC 700点 目標:
11月7日、14日、21日

>①だけでも、②だけでも、①②両方でも
受講可能です。それぞれ申し込みをしてください。
>定員: 15名
>担当: 橋本 由紀子先生

文法やリスニング、長文の苦手な方、ぜひ
苦手をなくして、100点UPを目指しましょう。

対面の場所はすべてOASIS マルチメディア教室で行います。

オンラインですので、物部キャンパス、
岡豊キャンパスの方も大歓迎です。

📄 申込はこちらから → 

問合せ: 今井典子 (noimai@kochi-u.ac.jp)

講座への申込締切
**10月5日(日)
18:00まで**

協定校留学を希望する方→グローバル教育支援センター
が提供する「個別留学相談」を活用してください。



資料 3: セミナーの案内(1 学期)

2025年度第1学期OASISセミナー

【主催】高知大学自律学習支援センター
【共催】高知大学グローバル教育支援センター

アジアの協定校からの留学生たち ～高知大学での学びと交流～

日時 **7月16日 [水] 14:50~16:20**

場所 人文社会科学部棟3階
オアシス マルチメディア教室 **4限目**

中国 北京外国語大学

リョウ 李広
2024年9月から留学中

インドネシア プラビジャヤ大学

サトリア
2024年9月から留学中

韓国 釜山外国語大校

パク ヒョンジュン
2024年9月から留学中

カン ジョウヘン
2025年4月から留学中

高知大学の協定校から来ている留学生たちのことを
知っていますか？今回は、中国・韓国・インドネシア
の大学から来ている留学生にお話してもらいます。

発表内容

- 母国の大学の紹介
- 日本語との出会い
- なぜ高知大学にきたのか
- 高知に来て一番がんばったこと
- 将来の夢
- 質疑応答

申し込みは、こちらから →
または、OASISにて！
申込締め切り 7月14日(月)
・当日参加OK！

<https://forms.office.com/r/r197f16jypLJk>

【お問い合わせ】
自律学習支援センター (OASIS)

開室時間: 平日 8:30~18:00
場所: 人文社会科学部棟3階
TEL: 098-934-8222
e-mail: oasiss@kochi-u.ac.jp



資料4: セミナーの案内(2学期)

2025年度第2学期OASISセミナー

【主催】高知大学自律学習支援センター
【共催】高知大学グローバル教育支援センター

協定校からの留学生たち
～ヨーロッパ・中央アジア編～

イギリス
セントラル・ランカシャー大学
ルージー

カザフスタン
カザフ国立大学
アヤラ

スウェーデン
イェーテボリ大学
カッティヤ

日時 12月10日[水] 14:50~16:20

場所 グローバル教育支援センター2階
国際交流スペース

4限目

海外協定校から来ている留学生にそれぞれの国についてお話ししてもらいます。発表の後には、国ごとに分かれて交流する時間もあります。

発表内容

- 母国の大学の紹介
- 日本語との出会い
- 日本に来て感じた文化の違い
- クリスマスの過ごし方

※軽食とドリンクをご用意しています!!

参加費無料

・申し込みは、こちら→
またはOASISにて!
・先着30名

【お問い合わせ】
自律学習支援センター(OASIS)

開催時間: 平日 8:30~18:00
場所: 人文社会科学部棟1階南

TEL: 088-844-8222
E-mail: oasis@kochi-u.ac.jp

<https://forms.office.com/r/V4RyHSQTx>

資料5: セミナーの案内(2学期)

高知大学

自律学習支援センター (OASIS) 主催

異文化理解セミナー

高知でALTとして勤務されている方にお話しを伺います

Speaker

Antonio Dowdyさん
高知県の高等学校でALTとして勤務。
日本語能力試験N1取得。

子供の頃に忍者や侍に興味を持ち、成長するにつれ漫画とアニメ、そして文学と日本語自体までが気になったアメリカ人です。
ニューメキシコ大学で政治学の傍らに独学で日本語を勉強し、卒業後、日本を経験しながら日本語を磨くため、2022年にALTとして来日しました。

日時/場所
1月20日(火)
5限 (16:30~18:00)
共通教育3号館1F
コミュニケーションルーム

セミナー内容:

- 日本の生活で感じたこと
- アメリカとの文化の違い
- 日本語をどうやって学んだか
- 英語を教える中で感じたこと

異文化理解、日本語学習、英語学習に関心がある方は是非ご参加ください!

人数を確認するため、事前にお申し込みをお願いいたします。
ただし、当日の参加も可能です。

その他お問合せはOASISまで

お申込みはこちらから→

資料 6: セミナーの案内(2 学期)



主催:
自律学習支援センター (OASIS)

自信をもって英語を話すためのワークショップ “How to Speak English with Confidence”

英語を話してみたいけれど、自信がない。「間違えたらどうしよう…」と不安に感じて、つい黙ってしまうことはありませんか。このワークショップでは、そうした不安を少しずつ和らげ、「話してみよう」と思える気持ちを育てることを目指します。英語で話すためのコツを、一緒に学びましょう。

日時:2月10日(火) 10:30~ 12:00
場所:1号館2階 127番教室

Find your voice in English!
From hesitation to communication:
Confidence is the key!

担当
Andy Harvey先生

申込締切
2月6日(金)
18:00まで

定員:10名

◎申込はこちらから→
問合せ:今井典子
(人文社会科学部)
(noimai@kochi-u.ac.jp)



資料 7: セミナーの案内(2 学期)

presentation

主催:
自律学習支援センター (OASIS)

英語による プレゼンテーション力育成 セミナー

“How to Make a Presentation in English with Confidence”
をテーマに、英語プレゼンテーションのセミナーを開催します。
「英語で発表するのは不安…」と感じている人も大丈夫。本
ワークショップでは、自信をもって英語でプレゼンに取り組
むためのポイントを分かりやすく学びます。

担当: Matthew Miller 先生
(所属:東京外国語大学)

Would you like to speak with more
confidence? In this workshop you will
get tips and practical skills that will
help you to become a great speaker!

日時:2月10日(火) 13:30~ 15:00
場所:1号館2階 127番教室

定員:10名

◎申込はこちらから→
◎申込締切:2月6日(金) 18:00まで
○問合せ:今井典子 (人文社会科学部)
(noimai@kochi-u.ac.jp)



参考資料

(1) 交流協定校一覧（大学間・部局間）

大学間協定一覧表（令和7年5月1日現在）

No.	相手先機関	国・地域名	締結年月日	協定内容	中心部局
1	マハラナプラタップ園芸大学	インド	2025年2月21日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
2	ブラビジャヤ大学	インドネシア	2003年2月28日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
3	ボゴール農業大学	インドネシア	2007年3月1日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
4	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2008年3月11日	学術交流	農林海洋科学部
5	タンジュンブラ大学	インドネシア	2010年2月1日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
6	リア外国語大学	インドネシア	2018年1月2日	学術交流及び学生交流	教育学部
7	バジャラン大学	インドネシア	2024年8月23日	学術交流及び学生交流	海洋コア国際研究所
8	釜山外国語大学校	韓国	2024年4月29日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
9	韓瑞大学校	韓国	2003年7月23日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
10	明知大学校	韓国	2013年1月3日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
11	国立慶尚大学校	韓国	2013年3月4日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
12	東国大学校	韓国	2013年7月3日	学術交流及び学生交流	教育学部
13	コンケン大学	タイ	1997年3月27日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
14	カセサート大学	タイ	2000年5月1日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
15	チェンマイ大学	タイ	2013年2月12日	学術交流	農林海洋科学部
16	タマサート大学	タイ	2013年8月20日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
17	ラジャマンガラ工科大学	タイ	2018年12月28日	学術交流	農林海洋科学部
18	国立中山大学	台湾	2007年5月14日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
19	東海大学	台湾	2007年10月18日	学術交流及び学生交流	教育学部
20	中国文化大学	台湾	2010年1月20日	学術交流及び学生交流	教育学部
21	国立高雄科技大学	台湾	2019年12月1日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
22	国立台湾海洋大学	台湾	2022年12月6日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
23	国立暨南国際大学	台湾	2024年5月20日	学術交流及び学生交流	次世代地域創造センター
24	揚州大学	中国	1997年3月10日	学術交流	農林海洋科学部
25	安徽大学	中国	2002年5月21日	学術交流及び学生交流	教育学部
26	陝西科技大学	中国	2003年5月15日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
27	天津師範大学	中国	2006年12月28日	学術交流及び学生交流	教育学部
28	佳木斯大学	中国	2008年3月24日	学術交流及び学生交流	医学部
29	南京航空航天大学	中国	2009年11月12日	学術交流及び学生交流	理工学部
30	北京語言大学	中国	2023年1月6日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
31	上海海洋大学	中国	2010年10月15日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
32	常州大学	中国	2011年12月19日	学術交流及び学生交流	理工学部
33	北京聯合大学	中国	2013年3月11日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
34	北京外国語大学	中国	2013年6月21日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
35	東北大学秦皇島分校	中国	2015年4月15日	学術交流及び学生交流	教育学部
36	ハルビン師範大学	中国	2023年11月7日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
37	大連外国語大学	中国	2024年5月8日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
38	フィリピン大学	フィリピン	2005年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
39	ピコール大学	フィリピン	2006年3月31日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
40	フルティド州立大学	フィリピン	2017年12月18日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
41	カタンドゥアネス州立大学	フィリピン	2019年6月3日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
42	パタンガス州立大学	フィリピン	2020年3月16日	学術交流	黒潮圏総合科学専攻
43	ベンゲツ州立大学	フィリピン	2025年2月17日	学術交流	人文社会科学部
44	ハノイ科学大学	ベトナム	2002年7月2日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
45	ハノイ国立教育大学	ベトナム	2006年1月6日	学術交流	農林海洋科学部
46	ハノイ科学工業大学	ベトナム	2012年11月1日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
47	タイグエン大学	ベトナム	2015年3月25日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
48	ビン大学	ベトナム	2018年3月29日	学術交流	農林海洋科学部
49	ベトナム国家大学ハノイ校日越大学	ベトナム	2024年5月10日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
50	マレーシアアプトラ大学	マレーシア	2007年5月18日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
51	マレーシアサラワク大学	マレーシア	2009年11月24日	学術交流及び学生交流	黒潮圏総合科学専攻
52	アイルランド王立外科医学院バーレーン医科大学	バーレーン	2013年3月21日	学術交流及び学生交流	医学部
53	ガーナ大学	ガーナ	2015年9月9日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
54	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	2019年8月28日	学術交流	人文社会科学部
55	カリフォルニア州立大学フレズノ校	アメリカ	2009年10月22日	学術交流及び学生交流	グローバル教育支援センター
56	ロードアイランド大学	アメリカ	2015年6月17日	学術交流及び学生交流	土佐さきかけプログラム
57	南マッドグロブス連邦大学	ブラジル	2012年3月13日	学術交流及び学生交流	医学部
58	国立ポリテク工科大学 応用研究所, サルティジョ校	メキシコ	2003年9月8日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
59	サルティジョ工科大学	メキシコ	2003年9月9日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
60	プエブラ栄誉州立自治大学	メキシコ	2024年6月13日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
61	セントラル・ランカシャー大学	英国	2022年6月20日	学生交流	グローバル教育支援センター
62	サッサリ大学	イタリア	2023年3月13日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
63	南ボヘミア大学	チェコ	1999年6月23日	学術交流及び学生交流	教育学部
64	インランドノルウェー応用科学大学	ノルウェー	2017年12月22日	学術交流及び学生交流	教育学部
65	クラクフ工科大学	ポーランド	2019年11月29日	学術交流及び学生交流	地域協働学部
66	カザフ国立大学	カザフスタン	2018年2月27日	学術交流及び学生交流	医学部

部局間協定一覧表(令和7年5月1日現在)

No.	相手先機関	国・地域名	締結年月日	協定内容	締結部局
1	高雄大学人文社会科学部	台湾	2016年9月21日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
2	開南大学人文社会学院	台湾	2016年11月29日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
3	淡江大学外国語文学部	台湾	2019年8月3日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部
4	イェーテボリ大学人文学部	スウェーデン	2021年2月22日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部,教育学部
5	樹人医療管理専科学校応用日本語学科	台湾	2018年1月9日	学術交流及び学生交流	教育学部
-	イェーテボリ大学人文学部	スウェーデン	2021年2月22日	学術交流及び学生交流	人文社会科学部,教育学部
6	パレストラ体育スポーツ大学	チェコ	2016年1月26日	学術交流及び学生交流	教育学部
7	ユニバーシティ・カレッジ・コペンハーゲン	デンマーク	2016年8月15日	学術交流及び学生交流	教育学部
8	ユバスキュラ大学教育学部	フィンランド	2015年12月10日	学術交流及び学生交流	教育学部
9	ザカリアス・トベリウス学校	フィンランド	2020年7月8日	学術交流	教育学部、特別支援学校
10	シアクアラ大学	インドネシア	2018年9月7日	学術交流	理工学部
11	モナッシュ大学理学部	オーストラリア	2019年3月8日	学術交流	農林海洋科学部,理工学部
12	パドバ大学理学部	イタリア	2010年1月20日	学術交流	理工学部
13	ソングラーナカリン大学医学部	タイ	2017年7月27日	学術交流及び学生交流	医学部
14	国立台湾大学医学部	台湾	2011年10月11日	学術交流及び学生交流	医学部
15	首都医科大学口腔医学院	中国	2004年10月28日	学術交流	医学部
16	マレーシアサイエンス大学	マレーシア	2022年11月1日	学術交流	医学部
17	ハワイ大学医学部	アメリカ	2010年2月10日	学術交流及び学生交流	医学部
18	タシュケント国立歯科大学	ウズベキスタン	2019年5月2日	学術交流及び学生交流	医学部
19	セメイ国立医科大学	カザフスタン	2018年2月21日	学術交流及び学生交流	医学部
20	ディボネゴロ大学水産海洋科学部	インドネシア	2022年9月21日	学術交流及び学生交流	農林海洋科学部
-	モナッシュ大学理学部	オーストラリア	2019年3月8日	学術交流	農林海洋科学部,理工学部
21	韓国地質資源研究院石油海洋資源部	韓国	2007年8月8日	学術交流	海洋コア国際研究所
22	国立台湾大学地質科学科、海洋研究所、炭素理工学研究所	台湾	2023年9月19日	学術交流及び学術交流	海洋コア国際研究所
23	アイスランド大学地球科学研究所	アイスランド	2018年4月4日	学術交流	海洋コア国際研究所
24	ウルビノ大学数理物質科学部	イタリア	2022年7月6日	学術交流	海洋コア国際研究所
25	フィリピン農業省漁業・水産資源局第2地域支所	フィリピン	2007年8月24日	学術交流	黒潮圏科学部門

(2) 海外派遣学生一覧

2025年度の交換留学については以下のとおりです。

【交換留学生(受入)】

2025年4月～	13名	
2025年5月～	3名	※
2025年6月～	5名	※
2025年8月～	22名	※
2025年9月～	1名	
2025年10月～	30名	
2025年11月～	1名	※
2026年2月～	4名	
2026年3月～	1名	
合計	80名	

※は在留資格「短期滞在」での受入れ

【交換留学生(派遣)】

2025年8月、9月、10月～	14名
2026年1月、2月、3月～	4名
合計	18名

令和 7 (2025) 年度
高知大学
グローバル教育支援センター年報

令和8(2026)年3月発行

高知大学グローバル教育支援センター
〒 780-8520 高知市曙町 2 丁目 5 番地 1
✉ global-education@kochi-u.ac.jp
☎ 088-844-8781